

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成19年度

KTC授業アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成19年度KTC授業アンケート調査結果について

KTC授業アンケートは、今回で6回目の結果報告ができることとなった。

前年度より10月に中期アンケート調査を、2月に通年アンケート調査を実施した。

中期アンケート調査は、平成18年度初頭のFD研修において、「年度末に行うアンケート調査では効果的な活用ができないので、実施時期を検討すべきである。」との建設的な意見が出されたこと及び19年度から2学期制を導入したことを受けて、年度半ばに実施したものである。

通年アンケート調査は、前年度と同様に平成20年2月の最終授業時に実施した。

これら2回のアンケート調査結果のうち、教員個人の教科にかかわるアンケート調査結果については、担当教員に個々に配布している。

個々の教科に関するアンケートでは

1. 年度中期に実施するアンケート調査は教育改善に必要な資料を得ることができること。
2. 通年アンケート調査により、教育改善努力の成果を確認できること。

が大きな特徴であったと考える。

本報告書では、個々の授業評価にかかわる部分を割愛し、2回のアンケート調査結果の総括を冊子にしている。この総括結果、特に経年変化に関する分析結果からわかることは、学生の授業に対する興味や取り組みが好ましい傾向にあることである。その結果、従来にも増して授業の内容に対する要求が強くなってきていることが分かる。教員が奮起しなければならない局面が増加しつつあることである。

アンケート調査の功罪については、従来も議論されている。しかし、長期的見地に立てば、多数年のアンケート調査にかかわる学生が同一人物でない(評価の母数が増える)ことで、評価結果の確度も向上したと考えられる。したがって、アンケート調査結果については真摯に捕える必要がある。難度の高い科目を担当する教員に対する学生の評価は低くなりがちであるという意見は妥当ではあるが、必ずしも真実ではない。なぜなら、当該教科でも教員が替わった結果、理解度も向上し、新担当教員に対する評価が高い例が見られるからである。授業に対する学生の満足度は、一つの目安となろう。何故なら、学生は教師を選定できないし、加えて本校のような私学においては、いかにしてレベルを維持したまま学生が満足する授業を実施するかが、死活問題に繋がっているからである。

改善の始まりは気付きである。本校の全教職員が、アンケート調査結果の裏面にある事実や現象に気付き、より充実し満足度の高い授業への発展に努めることが肝要である。

今後とも、本校では授業アンケートを実施し、教育改善に役立てたい。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

< 1 > 全体概略

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、1年間に受けた授業に対する評価と満足度を金沢高専の学生から聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は、各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであり、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2) 調査の概略

H19年度の調査の概略は下記の通り。

項目	内容			
分析データ件数 対象者		H19中期調査のべ回答数	H19通年調査のべ回答数	H19通年時点在校生数
	1年生	1,323件	1,352件	105名
	2年生	1,568件	1,563件	121名
	3年生	1,284件	1,275件	90名
	4年生	2,056件	1,942件	123名
	5年生	1,918件	1,894件	129名
	全体合計	8,149件	8,026件	568名
有効回答	平成17年度までは成績データを付加して集計していたため、学生番号の未記入やデータ不備によって成績データが入っていないものは無効回答として集計からは除外していた。 しかし、平成18年度からは成績データを付加していないため、全てのデータを集計の対象とした。経年比較を行う関係で以前のデータに関しても成績データの有無による選別を行わないことにしたため、一部のデータで以前の報告書と数値が異なる点もある。			
対象科目	中期調査:233科目 通年調査:230科目			
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。			
調査主体	学校法人 金沢工業大学			
集計	有限会社 アイ・ポイント			

3) 実施スケジュール

H19年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

調査種別	作業	ステップ	時期	備考
中期調査	速報版作成作業	調査実施	9月15日～9月26日	
		データ入力	9月26日に完了	OMRにより処理
		速報版作成	9月26日～10月11日	
		速報版完成	10月11日	
	最終報告書作成作業	報告書作成	11月12日	
通年調査	速報版作成作業	調査実施	2月14日～2月20日	各授業の最終日に実施
		データ入力	2月29日に完了	OMRにより処理
		速報版作成	2月29日～3月4日	
		速報版完成	3月4日	
	最終報告書作成作業	報告書作成	4月28日	

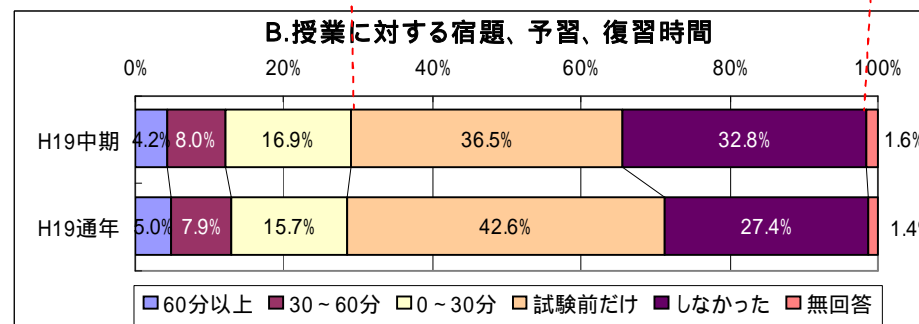
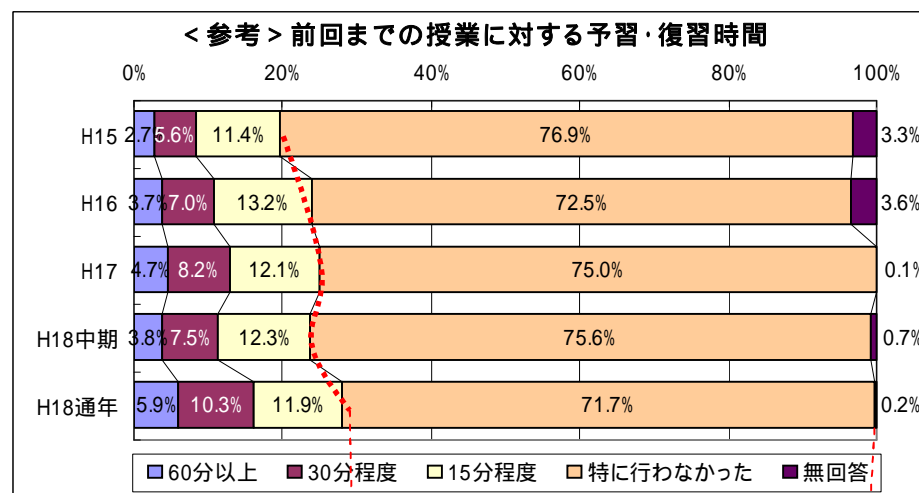
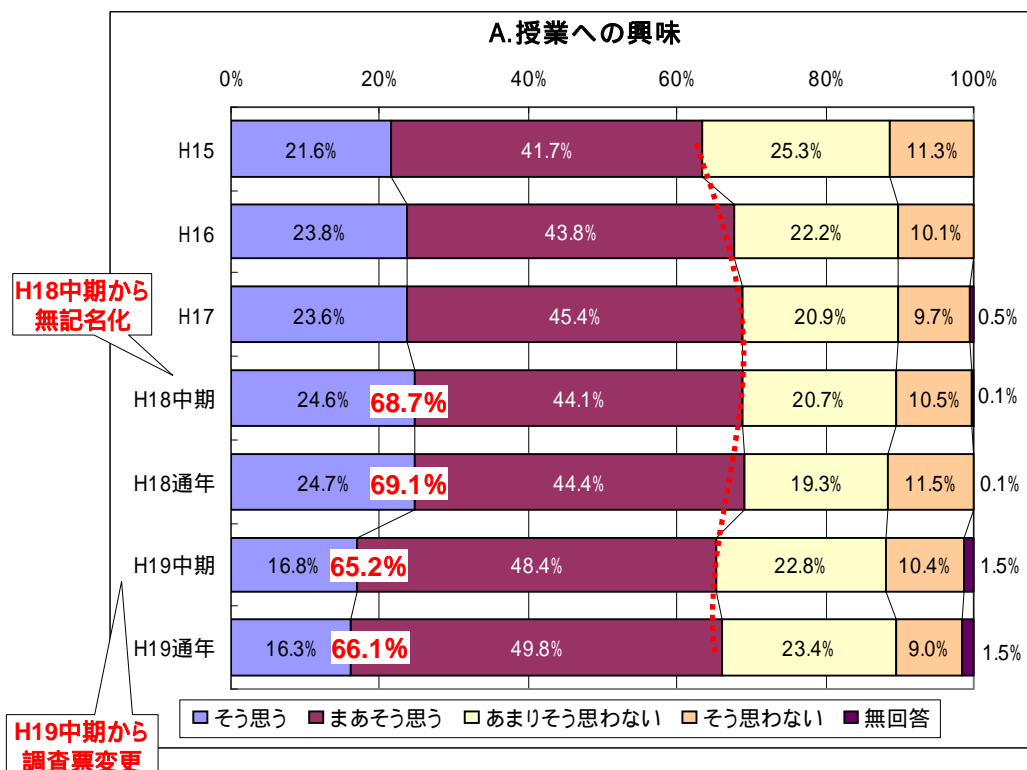
4) 集計に関して

1. 加重平均: 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢に用いた。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 部会は以下の6つとした。「一般科目」「語学科目」「数理科目」「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」
3. 時系列比較を見るために平成15年度から平成19年度通年分までの比較を行ったが、科目番号体系が異なっているため、科目毎の比較は行っていない。

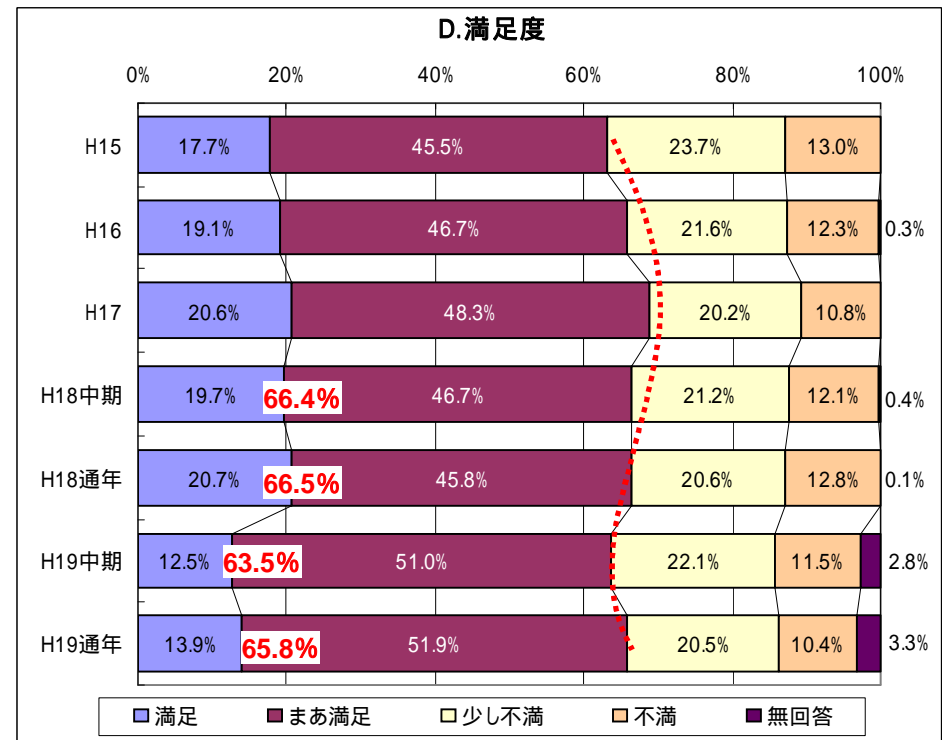
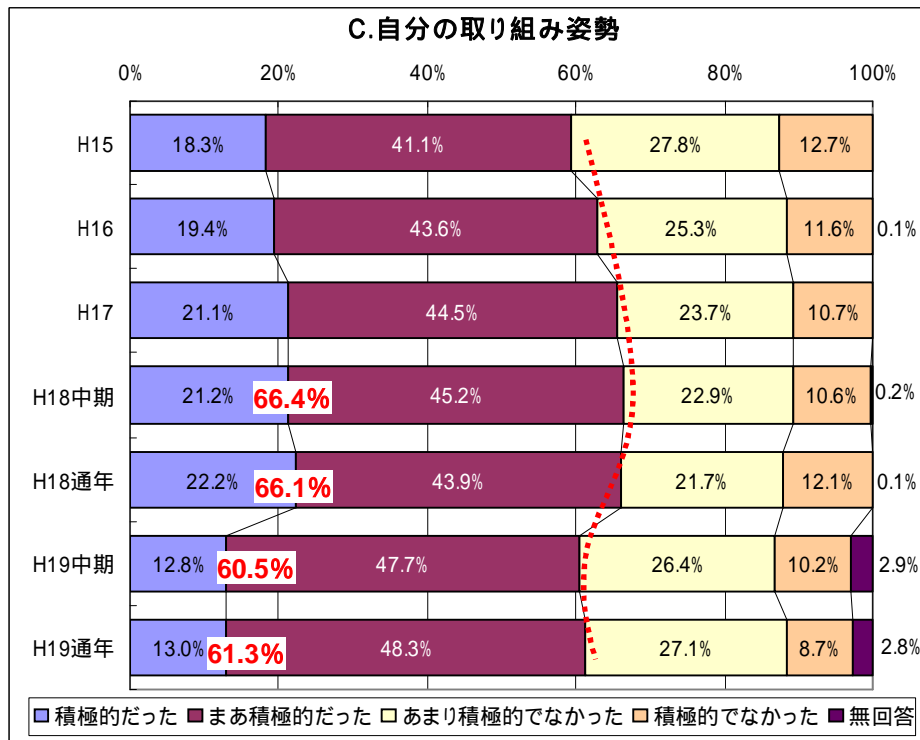
< 2 > 基本的な集計

1) 授業への取り組み姿勢

- 授業への取り組み姿勢を見るにあたり、まずH19通年の「授業への興味」に関して、「この授業に興味を持って受け続けられましたか？」と聞いたところ、16.3%が「そう思う」、49.8%が「まあそう思う」と回答しており、合わせると全体の66.1%は興味を持って授業を受けていた。
- この調査自体はH18から無記名化し、H19には調査票の内容を変更しているため時系列変化を見るのは難しいが、全く同じ条件であるH19中期と比較すると、授業に興味を持っている層は65.2%から66.1%へとわずかではあるが増加していた。H18を見ても中期から通年にかけて後半に授業に対する興味が強まっており、1年間で見ると後半に興味が強まる傾向がありそうであった。
- 今回の「宿題・予習・復習時間」は5.0%が「60分以上」、7.9%が「30～60分」、15.7%が「0～30分」であり、ここまでを合わせると28.6%は日常的に勉強しているようであった。そして、半数近い42.6%は「試験前だけ」という結果であった。
- H19中期と比較すると、日常的に勉強している割合は変わっていないが、「試験前だけ」が6.1ポイント増加し、「勉強をしなかった」が5.4ポイント低下しており、試験前だけであるが1年の後半には勉強している学生が増加していた。

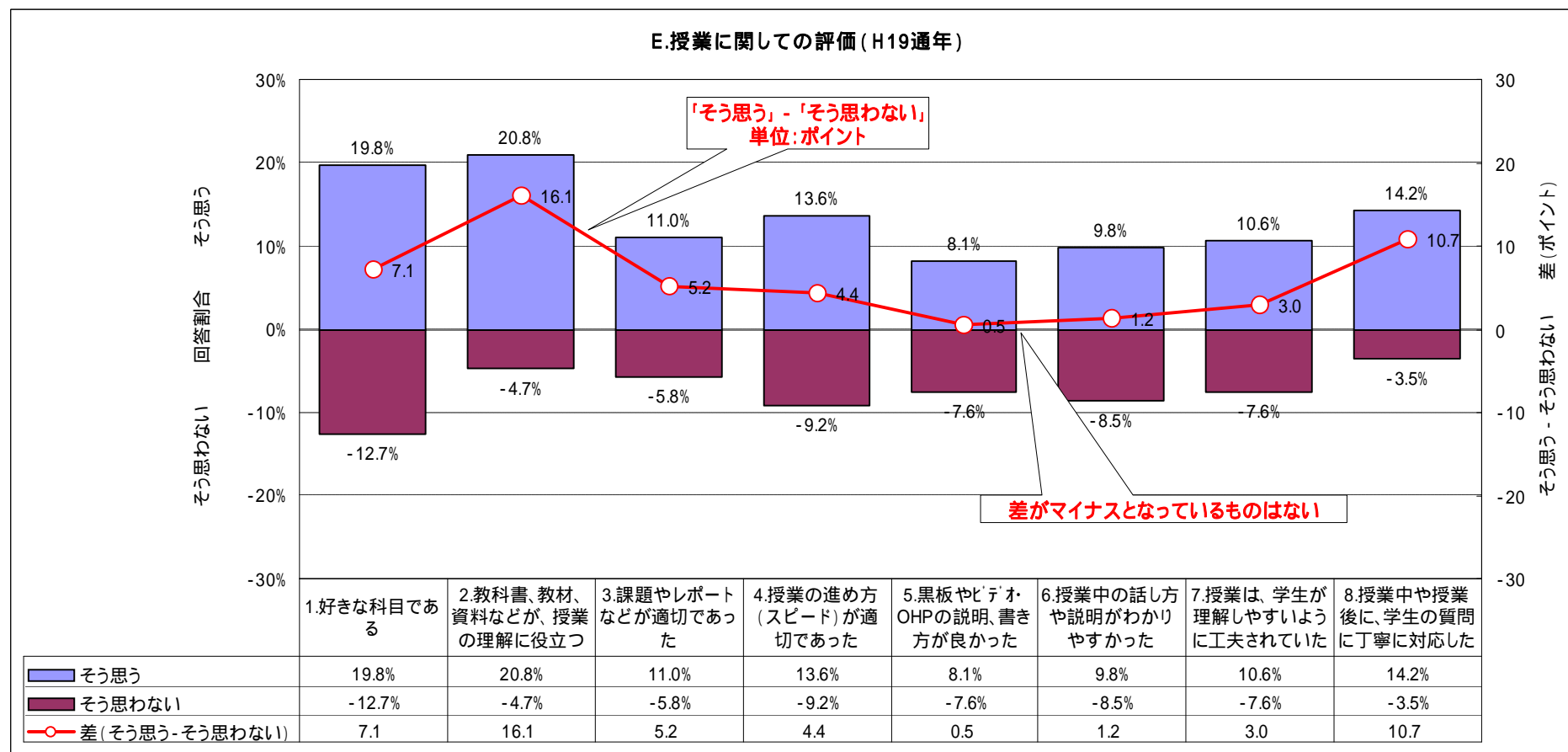


- 「自分の取り組み姿勢」では「積極的だった」が13.0%、「まあ積極的だった」が48.3%であり、合わせると61.3%は授業に積極的に取り組んでいたと言える。
- 同条件で実施したH19中期と比較すると、積極的に授業に取り組んだ学生は60.5%から61.3%へとわずかではあるが増加していた。また、H18では中期と通年の調査でほとんど変化がなかったが、H15からH18までは積極的な学生が徐々に増加していた。
- 「満足度」では「満足」が13.9%、「まあ満足」が51.9%であり、合わせると65.8%が満足と答えていた。他の指標を見ると「興味」が66.1%、「積極的」が61.3%であり、全体の6割は良い状態にあると言える。
- 一方、「不満」は10.4%、「少し不満」は20.5%であり、この3割の学生に対する対応が重要なポイントと言える。
- H19中期と比べると授業に満足している学生は63.5%から65.8%へと増加しており、良い傾向が見られた。H18の中期と通年はほとんど変化していないが、H19は後半に満足度が向上しており、何らかの改善が評価されたものと思われる。
- 記名・無記名や調査票の変更があったものの、常に6割程度が満足しているという実態であると言える。



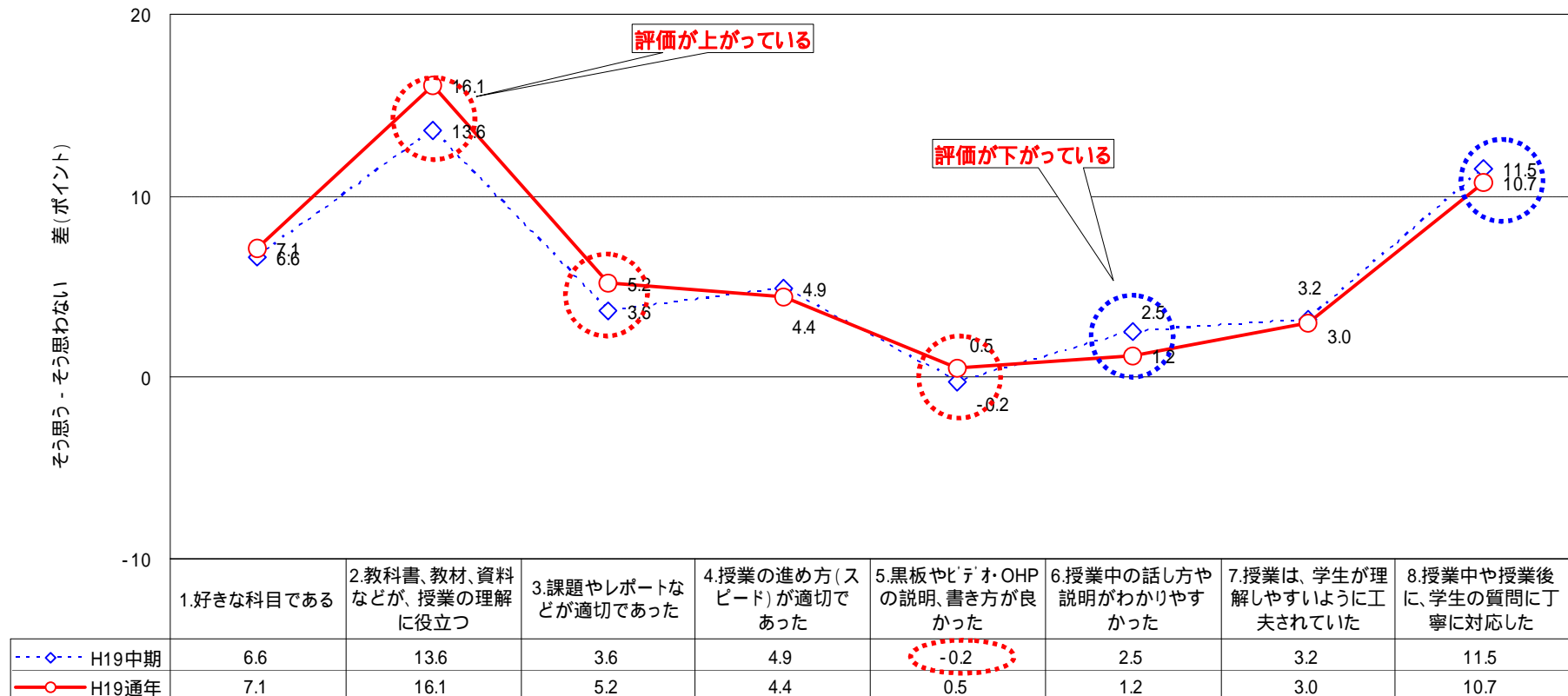
2) 授業に関する評価

- 授業の詳細項目に関する評価で「そう思う」が最も多かったのは「教科書、教材などが役立つ」であり、次いで「好きな科目である」「質問に丁寧に対応した」「授業の進め方が適切であった」と続いていた。
- 一方、「そう思わない」が最も多かったのは「好きな科目である」であり、授業の評価として「好きであること」は最も意見が分かれるポイントであることが分かる。また、「授業の進め方が適切であった」も意見が分かれる点であると言える。
- 意見が一致している傾向にあったのは「教科書、教材などが役立つ」「質問に丁寧に対応した」の2点であり、学生にも評価されていると言える。
- 「そう思う」の割合から「そう思わない」の割合を引いたものが折れ線グラフであるが、これを見ると数値が「マイナス」となるものはなく、「良い評価の方が多かった」と言える。



- 前項で見た「そう思う」から「そう思わない」を引いたスコアを、同一条件で調査したH19中期と比較したところ下記のようになった。
- 前は「黒板やビデオなどの説明、書き方」がマイナスとなっていたが、今回はわずかではあるがプラスとなっており、前項でも確認したようにマイナス評価のものはなくなった。しかし、「黒板やビデオ」「授業中の話し方や説明」の2点のスコアは決して高いものではない。
- H19中期と通年との差を見ると、「教科書、教材などが役立つ」の評価は明らかに上がっていた。また、「課題やレポートなど」「黒板やビデオなどの説明、書き方」も上がっており、授業をサポートする教材やツール類は良くなっていると言える。
- H19中期と比べて最もスコアが下がっていたのは「授業中の話し方や説明」であった。「質問に丁寧に対応した」も少し低下しており、話し方や学生に対する対応に課題がありそうであった。
- 前回からの変化はわずかであるものの、話し方や質問対応といった個別のコミュニケーションの面の評価が下がったのは残念な点であった。

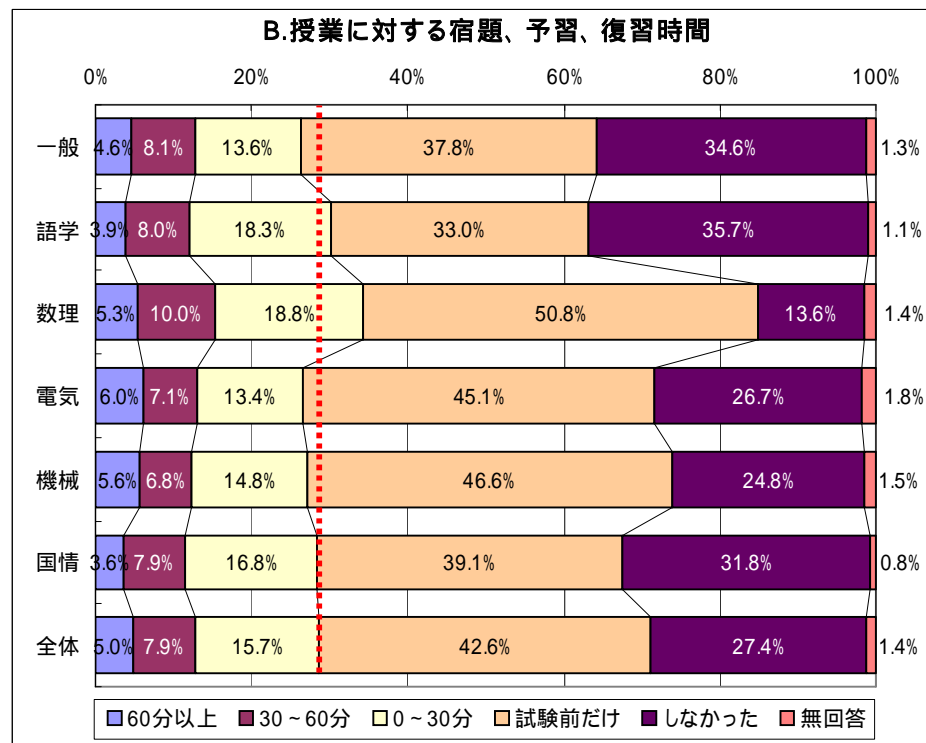
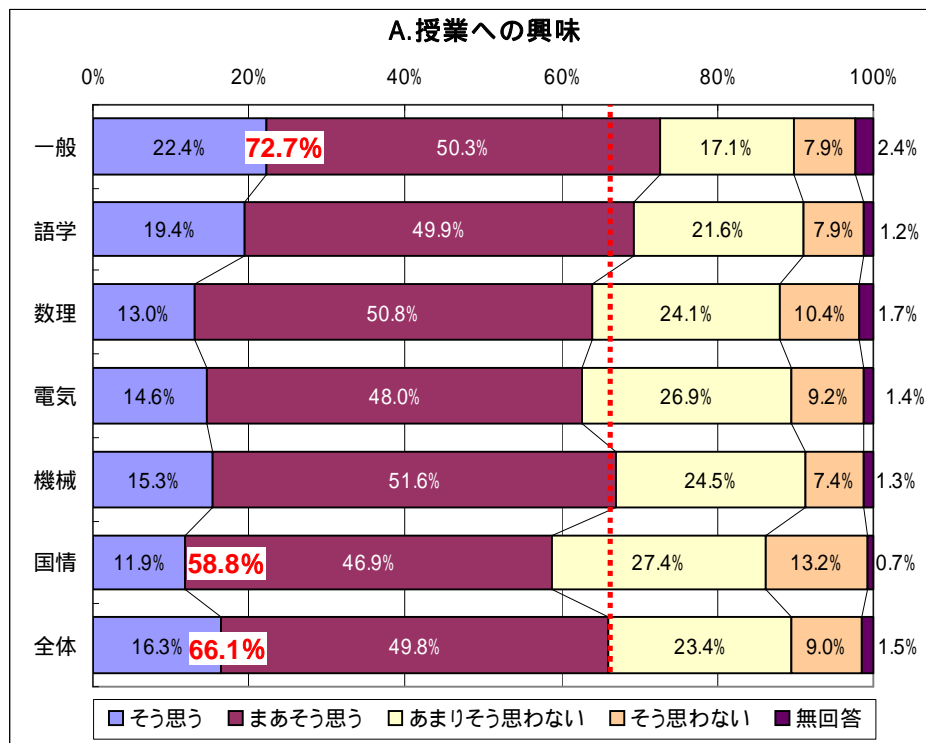
E.授業に関する評価の時系列比較



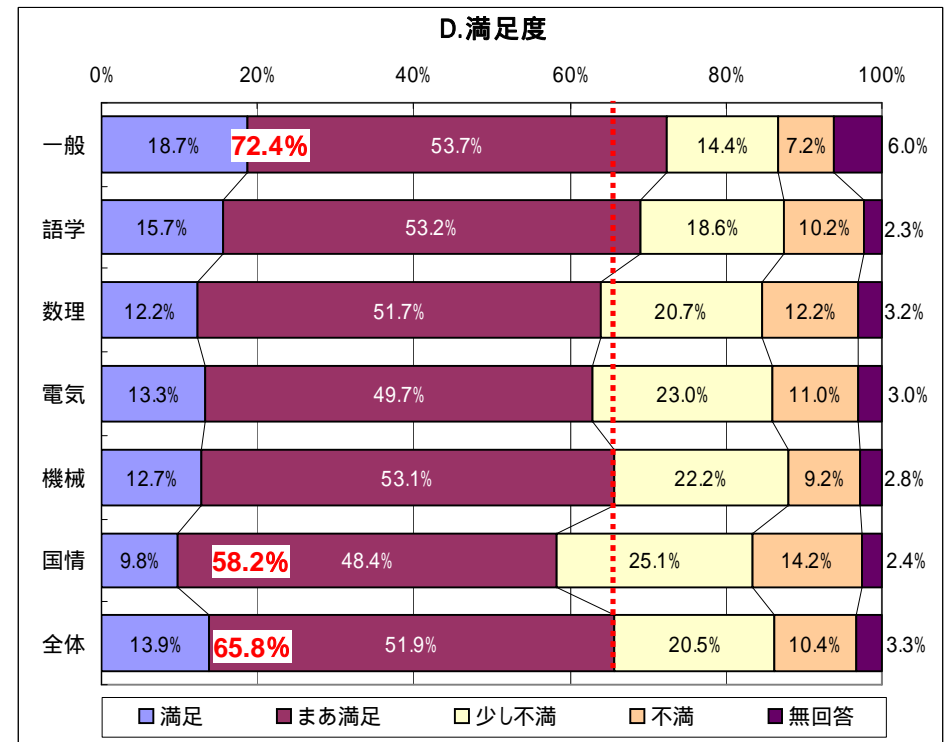
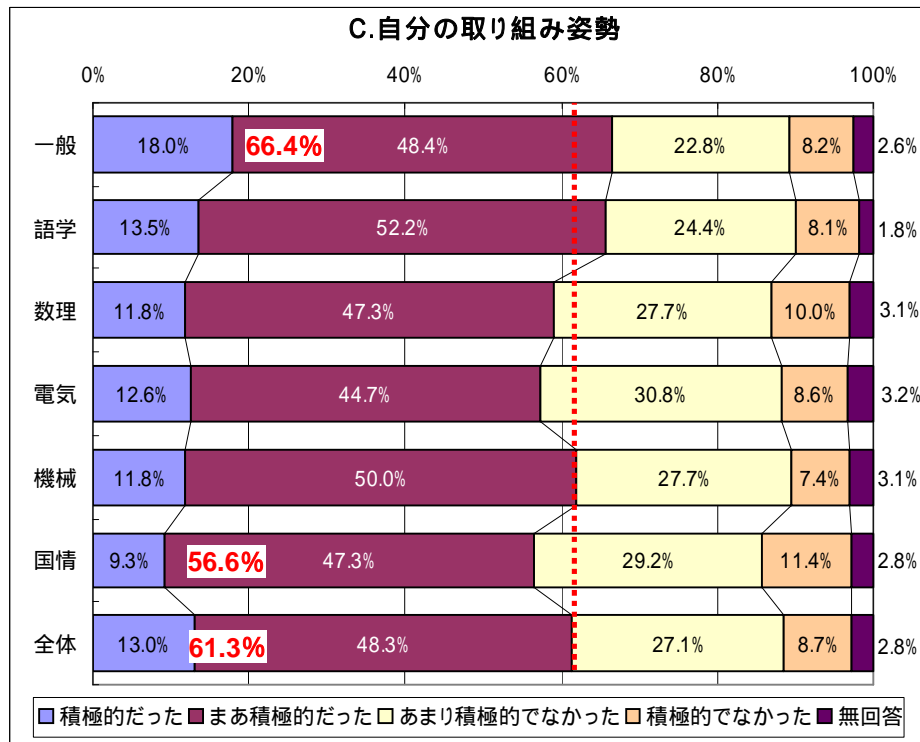
< 3 > 部会別の比較

1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

- 「授業への興味」の「そう思う」と「まあそう思う」の合計を部会別に比較したところ、「一般」がもっと高く、次いで「語学」「機械」が続いており、これらに対する興味が強いことが分かった。
- 最も興味を持っていないのは「国情」であり、全体平均と比べると7.3ポイント低く、最も興味を持っていた「一般」と比べると13.9ポイントもの差がついており、部会による差がかなり大きいと言える。
- 「宿題・予習・復習時間」は「数理」の授業で最も長く、「試験前だけ」が50.8%と多いものの「しなかった」は13.6%にとどまっていた。次いで「語学」がやや長いようであったが、「しなかった」も35.7%と最も多く、ここでは勉強をする層としない層に大きく分かれていると言える。
- 他の部会ではそれほど差が大きくなかったが、「しなかった」は「語学」「一般」「国情」で多く、「数理」「機械」「電気」は「試験前だけ」が多いが、やや時間を充てていると言える。



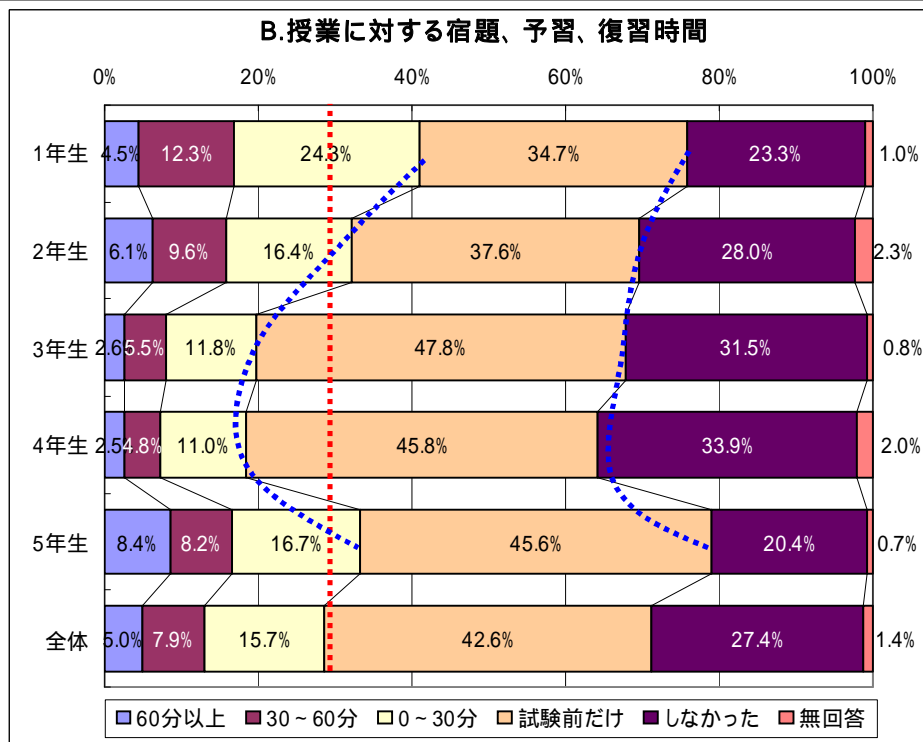
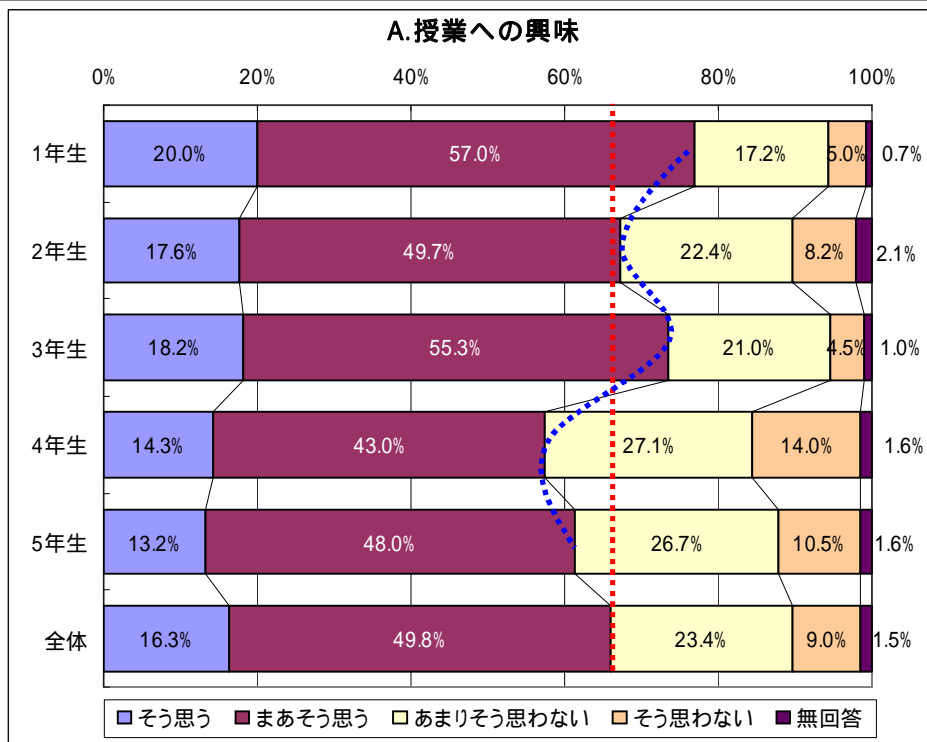
- 「取り組み姿勢」では、「一般」「語学」で積極性が高く、「機械」は平均と同程度であった。そして、「国情」が最も積極性が低く、「電気」「数理」が続くという状況であった。
- 最も積極的であった「一般」と「国情」では9.8ポイントの差がついていた。
- 「満足度」でも「一般」の満足度が最も高く、72.4%が満足していた。次いで、「語学」「機械」が続いており、「一般」「語学」「機械」という順は「興味」「積極性」「満足度」の3つ共に共通であった。
- 満足度が最も低かったのは「国情」で、満足している学生は58.2%であり、最も高い「一般」と比べると14.2ポイントの差がついていた。満足度においても「電気」「数理」は低めであったが、全体平均との差はそれほど大きくなく、結果として「国情」の低さが非常に目立つ結果となった。



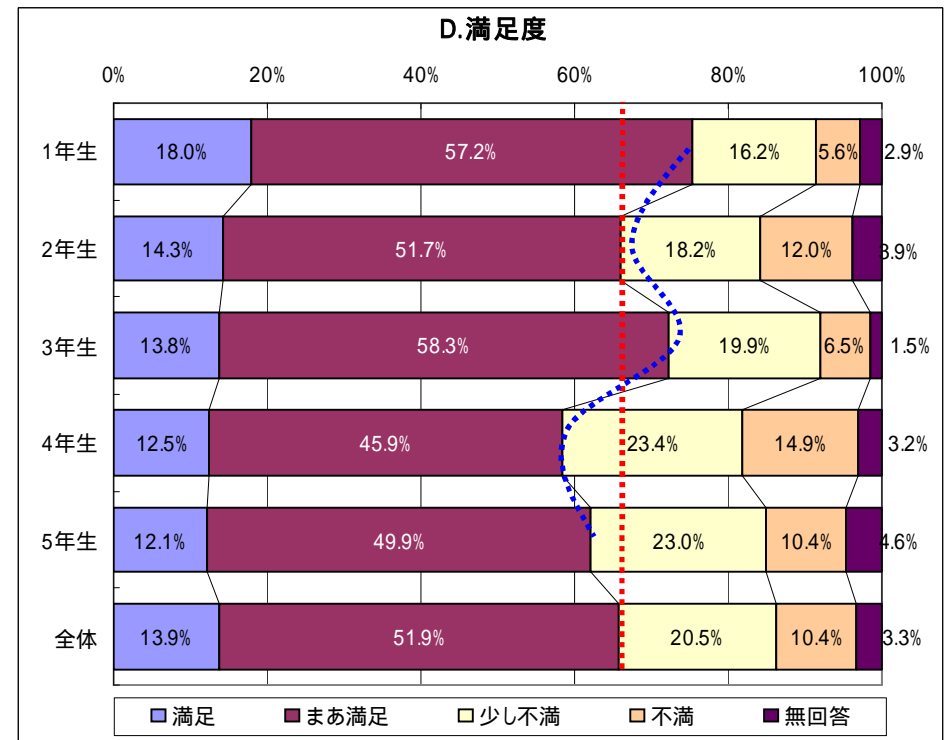
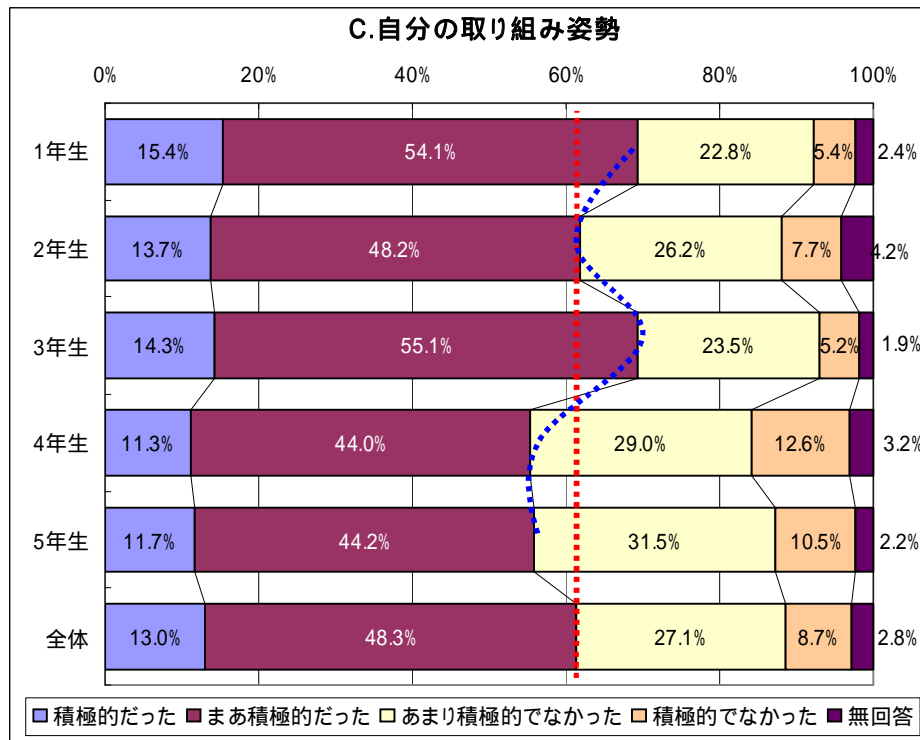
< 4 > 学年別の比較

1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 学年別に「興味」を比較すると、1年生が最も興味が強くと、77.0%が授業に興味を持っていると答えていた。次いで、3年生の73.5%、2年生の67.3%と続いており、1～3年生の7割程度は授業に興味を持っており、2年生よりも3年生の興味が強かった。
- 最も興味低かった学生は4年生であり、興味を持っていたのは6割を切る57.3%であった。そして5年生は61.2%が興味を持っており、4年生を上回っていた。4～5年生で授業に興味を持っていたのは6割程度で、4年生は全学年中でも最も低かった。
- 「宿題・予習・復習時間」は学年による変化が明確であり、1年生の段階では約4割が日常的に時間をとっていたが、学年が上がるほど宿題・予習・復習時間は少なくなり、時間をとっているのは2年生で約3割、3年生、4年生で約2割という結果であった。
- 5年生は卒業をひかえて授業の内容や心構えが変わってくるためか、時間をとっている学生の割合が一気に増加して約35%が時間をとっていると答えていた。
- 「宿題・予習・復習時間」は1年生から4年生にかけて徐々に減少する傾向は確認できたが、「しなかった」も全く同じ傾向であり、4年生では33.9%が全く時間をとっておらず、授業に対する心構えが非常に低いことが分かる。

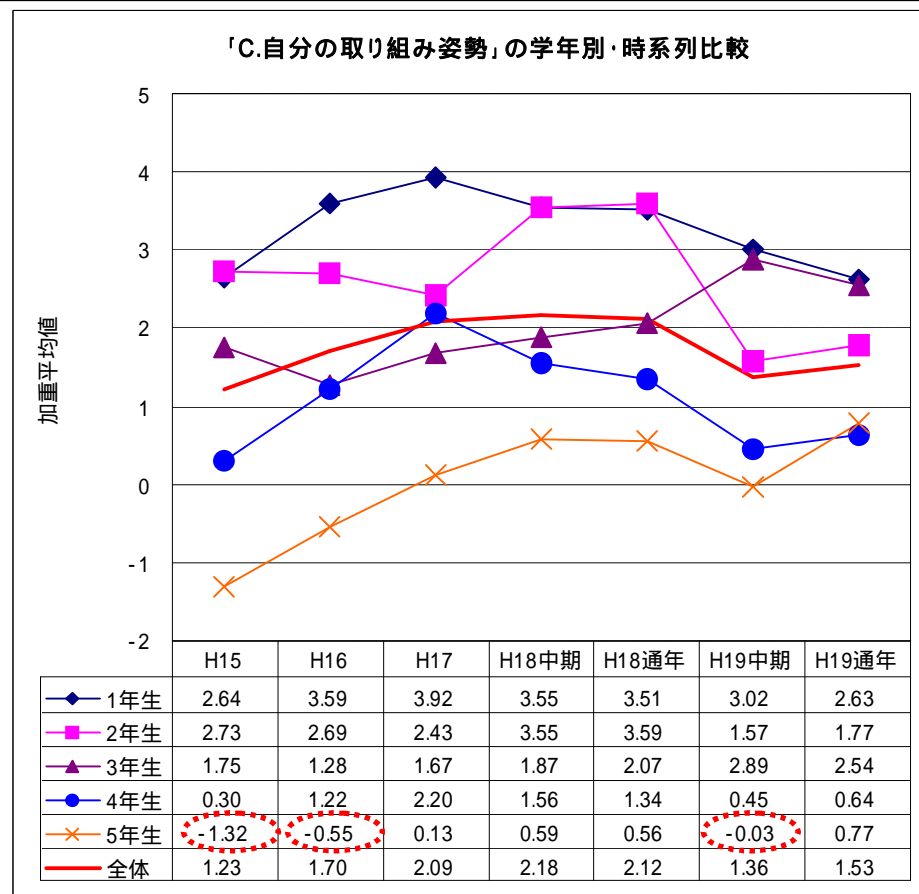
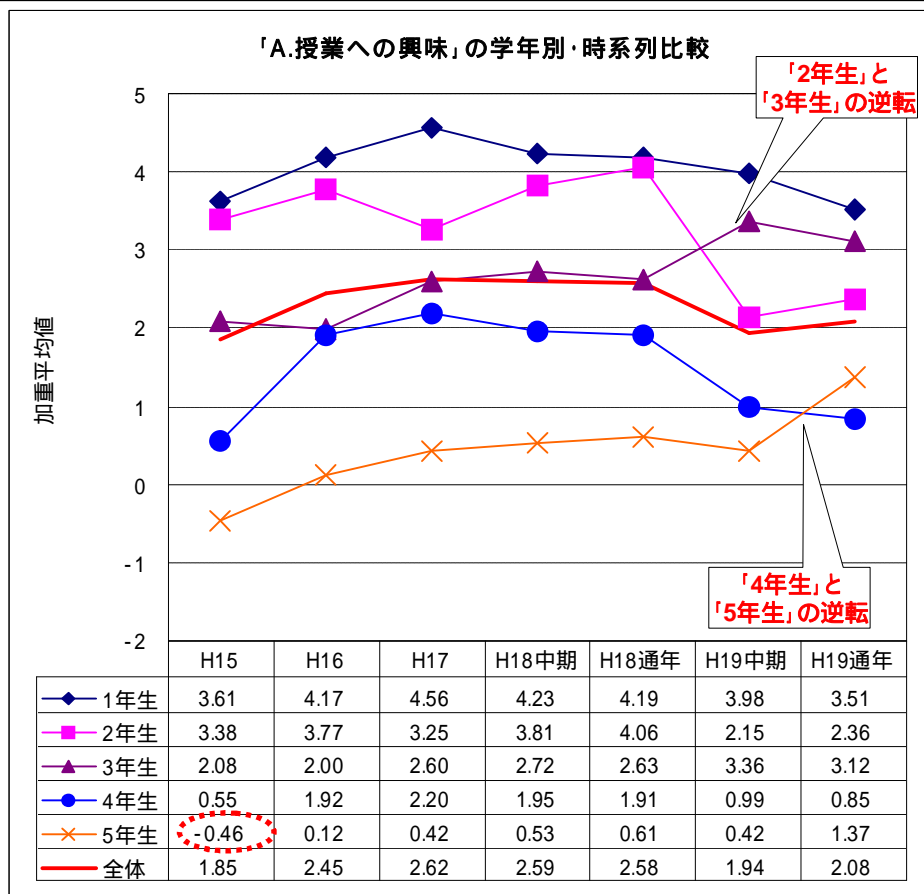


- 「取り組み姿勢」を見ても前項の「興味」と同じような傾向が見られ、積極的だった学生は1年生と3年生であり、この2学年では約7割が積極的に授業に取り組んでいた。2年生で積極性がやや薄れ、約6割が積極的に取り組んだと答えていた。
- 4年生、5年生はほとんど差がなく約45%が積極的であり、わずかではあるが5年生の方が積極的であった。
- 「満足度」も他の指標と同じ傾向であり、1年生の満足度が最も高く75.2%が授業に満足しており、21.8%が不満を感じていた。次いで3年生では72.1%が満足しており、2年生が66.0%という順であった。
- 最も満足度が低かったのは4年生であり、満足している学生は58.4%で、38.3%は不満を感じていた。そして、5年生では62.0%が満足し、33.4%が不満を感じていた。
- 「興味」「積極性」「満足度」ともに、1～3年生が高く4～5年生が低いという傾向が見られ、この2つの学年の間に何らかの変化があると思われる。3年制の高校に行った同級生との違いが目に見えるのが3年生から4年生になる時点であり、その違いによって気持ちに変化が出るものと思われる。今後は、この変化をプラス方向に向ける工夫が必要と言える。

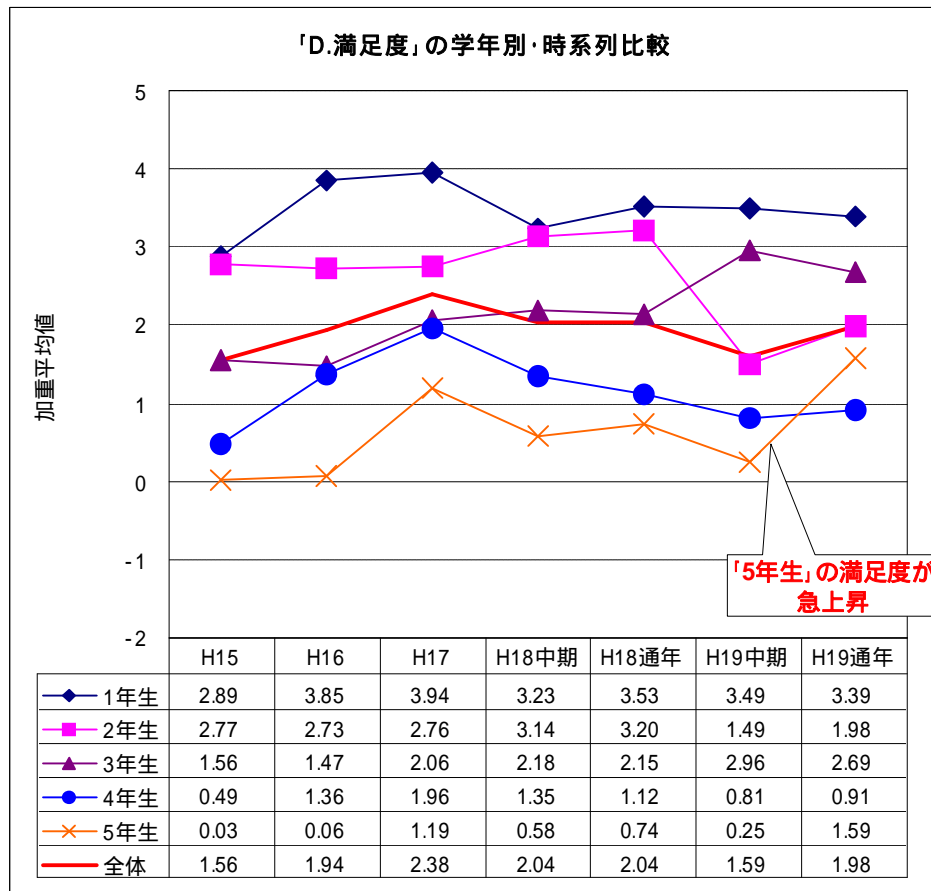


2) 学年別 授業への取り組み姿勢の時系列比較

- 学年別の時系列比較は、その時々を比較したものであり、同一学生群の変化を追ったものではないが、H19中期から今回のH19通年にかけては同一学生の比較となる。
- 調査票を変更したH19中期からの変化では、5年生はH19通年の段階で興味が一気に上がっていた。H18中期からH18通年にかけてはほとんど変化がなく、今回の結果に至る要因が気になる点であった。そして、2年生もH19通年にかけてわずかに興味が強くなっていた。
- 1年生、3年生、4年生はわずかであるがH19中期から通年にかけて興味が強まっており、4年生と5年生の順位が入れ替わっていた。
- 「取り組み姿勢」も「興味」と似たような変化であり、5年生の積極性が大きく向上し、2年生と4年生がわずかに向上、1年生と3年生がわずかに低下という結果であった。
- 興味、積極性を見ると3年生の高さが目立っているが、この学生群は1年生時点、2年生時点でも非常にスコアが高い点が特徴的であった。学生群による分析は後述するが、「現3年生」は常に前向きに授業に取り組んでいる様子がうかがえる。



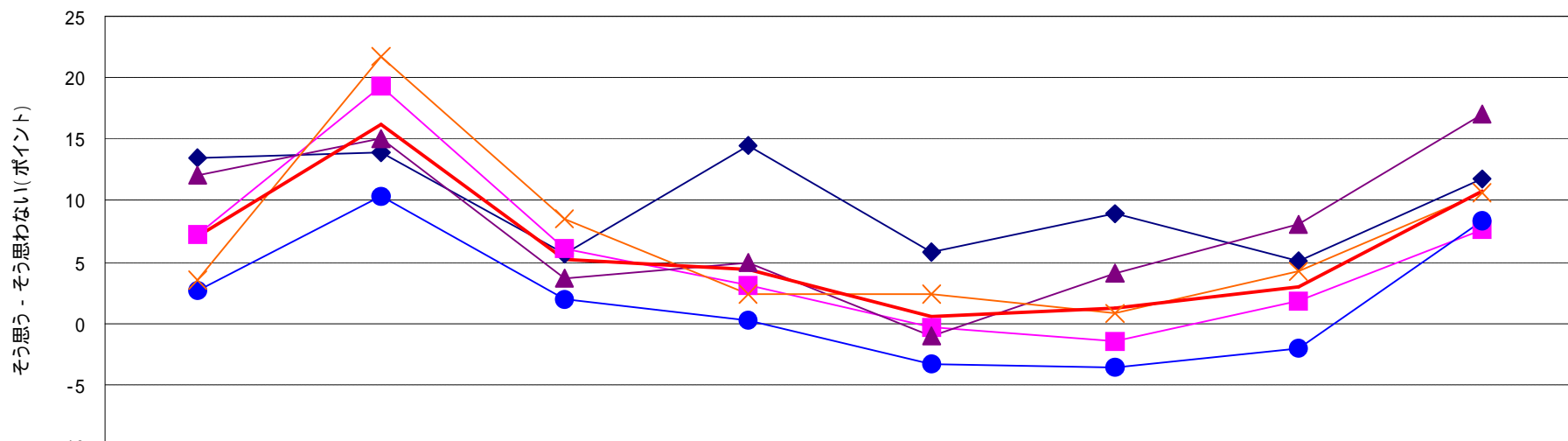
- 「満足度」も前項の指標と似た動きとなっており、5年生がH19中期からH19通年にかけて大きく満足度を上げており、2年生、4年生がわずかに増加という結果であった。
- 1年生と3年生は前回よりも満足度が低下していたが、1年生はほとんど変わらず、3年生は下がったものの他の学年と比べると満足度は高かった。
- 5年生のH19中期から通年にかけての変化は「興味」や「取り組み姿勢」でも見たように「満足度」でも非常に大きく、半年でこれほどの変化が出るには何らかの大きな要因があるものと思われる。また、H18中期から通年にかけても5年生の満足度は上がっていたが、卒業をひかえた5年生であり、気持ち的に何か変化があるのではないかと考えられる。



3) 学年別 授業に関するの評価比較全体比較

- 授業評価を学年別に見たところ、1年生の高さと4年生の低さが目立っていた。
- 1年生は「授業の進め方」の評価が高く、その他も概ね高めで満足度の高さと一致しているようである。一方の4年生はほとんどの項目で最も評価が低く、「黒板やビデオなど」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」の3点はマイナススコアであり、満足度の低さと一致していると言える。
- その他の特徴として、5年生は「教科書、教材、資料」「課題やレポート」などの授業のサポートツールの評価が高く、学生群として常に満足度が高めの3年生は「質問に丁寧に対応」「理解しやすいように工夫」の評価が高く、教員に対する評価が高いと言えそうであった。
- 「興味」や「満足度」では1年生と3年生の高さが目立っていたが、授業の評価と合わせてみると、「授業の進め方」「黒板やビデオ」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」「質問に丁寧に対応」など、教員とのコミュニケーションが「興味」「満足度」を左右する要因になっていると言えそうであった。

E. 授業に関するの評価 学年別比較

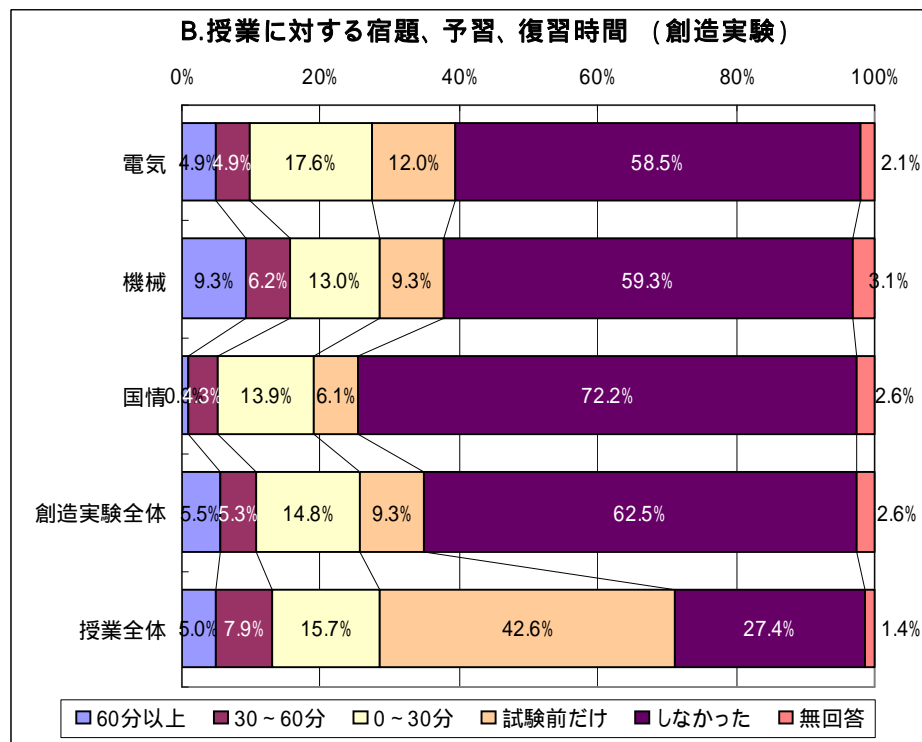
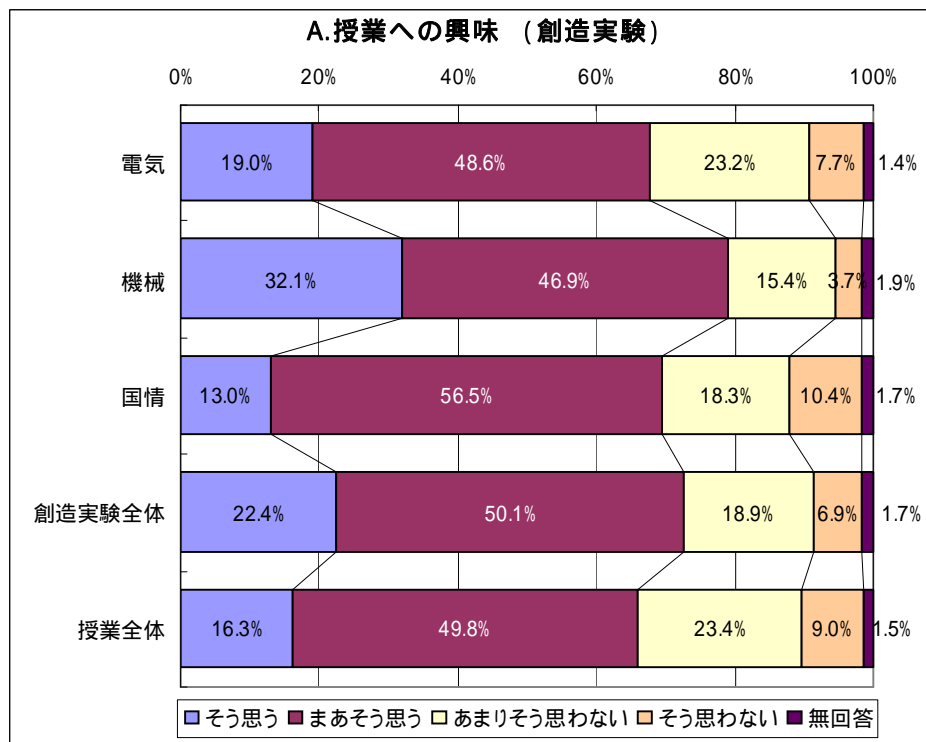


	1.好きな科目である	2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ	3.課題やレポートなどが適切であった	4.授業の進め方(スピード)が適切であった	5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった	6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった	7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた	8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した
◆ 1年生	13.5	13.9	5.7	14.4	5.8	8.9	5.0	11.8
■ 2年生	7.2	19.3	6.1	3.1	-0.3	-1.4	1.9	7.7
▲ 3年生	12.1	15.1	3.6	4.9	-1.1	4.1	8.1	17.0
● 4年生	2.7	10.4	1.9	0.3	-3.3	-3.6	-2.0	8.4
× 5年生	3.5	21.8	8.4	2.3	2.4	0.8	4.3	10.7
— 全体	7.1	16.1	5.2	4.4	0.5	1.2	3.0	10.7

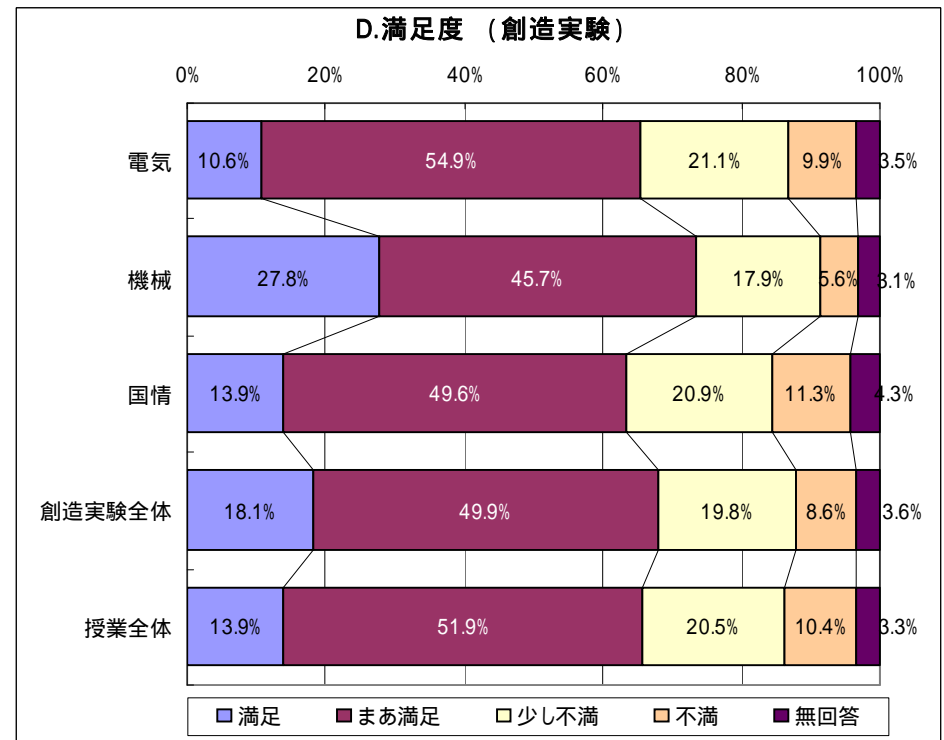
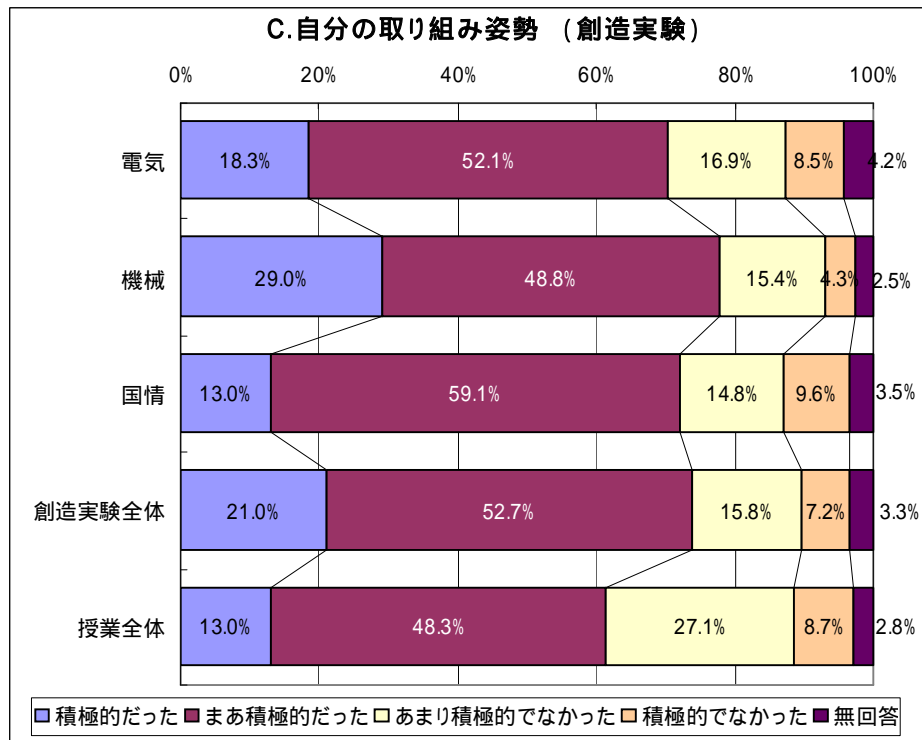
< 5 > 創造実験に関して

1) 創造実験の授業への取り組み姿勢比較

- 特徴的な授業である「創造実験」だけを抽出して部会別に比較を行った。
- 創造実験全体の「興味」に関して、「そう思う」の22.4%と「まあそう思う」の50.1%を合わせると、72.5%が興味があると答えており、授業全体の66.1%を6.4ポイント上回っており、「創造実験」への興味の強さが確認できた。
- 部会別に比較すると「機械」が最も興味を持っており、79.0%が興味ありと答えていた。「国情」「電気」は約7割で同程度であった。
- 「宿題・予習・復習時間」を見ると、授業全体では約3割が日常的に勉強しており、約4割が「試験前だけ」、約3割が「しなかった」という結果であった。「創造実験」だけを見ると、約3割が日常的に勉強している点は共通であったが、「試験前だけ」が約1割にとどまっており、約6割が「しなかった」と答えており、「宿題・予習・復習」を行っていない学生が非常に多いことが分かった。
- 部会別には「国情」が最も時間をとっておらず、「電気」「機械」はよく似た傾向であった。授業の内容にもよるが「創造実験」に対しては、興味はあるものの自宅での学習はやっていない学生が多かった。



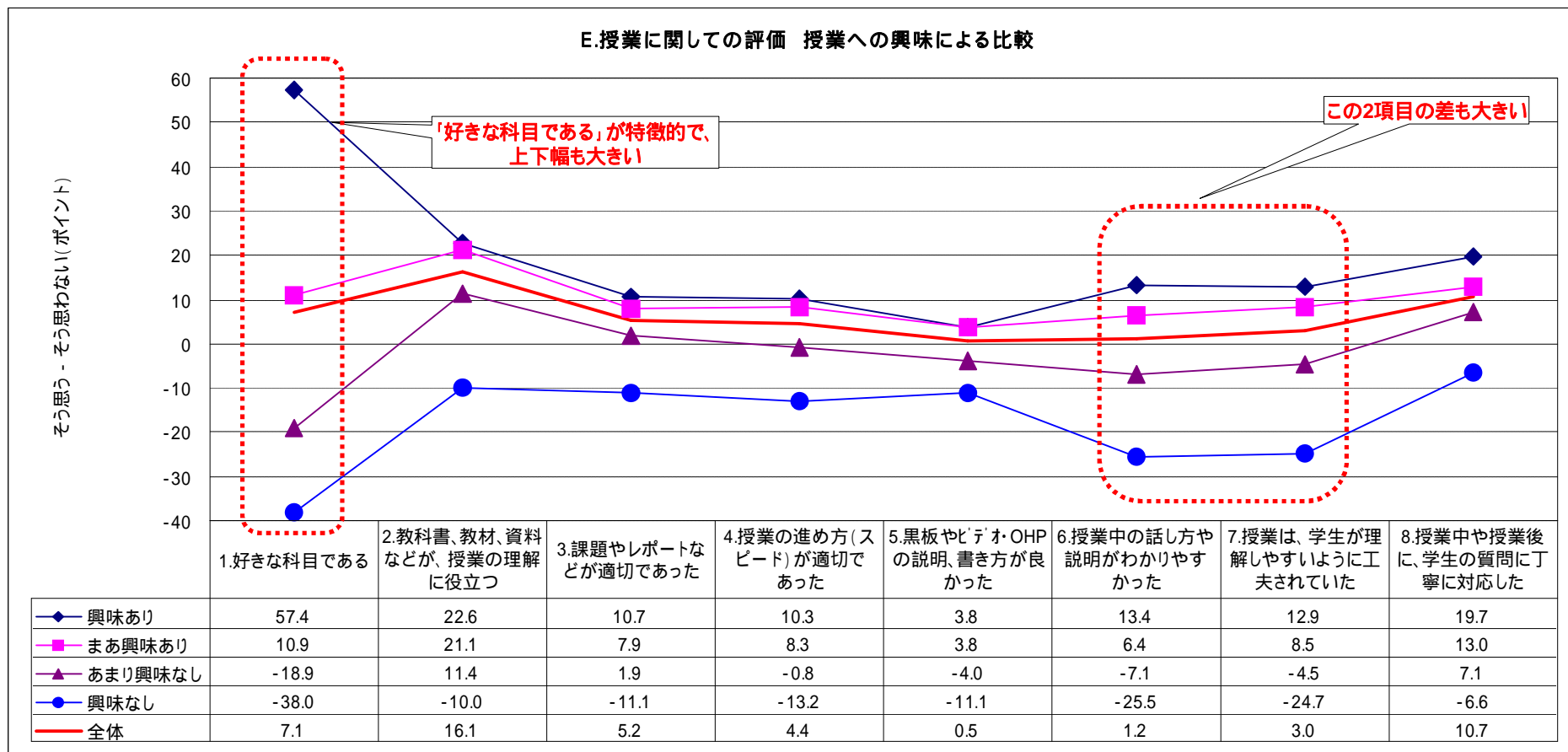
- 「取り組み姿勢」に関しても「興味」と同様であり、創造実験全体への積極性は授業全体を上回り、73.7%が積極的に取り組んでいた。
- 部会別で見ても「興味」と同様で、「機械」が最も積極的に取り組んでおり、77.8%が積極的であったと答えていた。次いで、「国情」「電気」の順であり、この2部会でも約7割が積極的に取り組んでいた。
- 「満足度」も「興味」「積極性」と同様の結果であり、創造実験に満足している学生は授業全体に満足している学生の65.8%を2.2ポイント上回る68.0%であり、創造実験に対する取り組みは他の授業と比べて良い状態にあると言える。
- 部会別の比較も他の指標と同様であり、「機械」の満足度が最も高く、「電気」「国情」が同程度であった。
- ここまで見た4つの指標を授業全体と比べると、創造実験では「積極性」が全体に比べて高い点の特徴であり、授業に備えて自宅での学習を行っていないという点も授業全体と差がある点と言える。



< 6 > 授業への取り組み姿勢別比較

1) 授業に関する評価 興味による比較

- 授業に対する「興味」によって授業の評価がどのように異なるかを確認したが、全体的な傾向としては、当然ではあるが授業に興味のある学生の方が個別の機能を高く評価しており、授業に興味のない学生はあらゆる面で授業の内容の評価が低いことが確認できた。
- 授業の評価の中で「興味」によって差が大きかったのは「好きな科目」であった。これも当然の結果であるが、授業に興味を持っている学生は授業が好きだと感じており、好き嫌いが興味に非常に大きな影響を与えていることが確認できた。
- また、「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」も興味によって差が大きく、この2つの点も授業の評価に大きな影響を与えていると考えられる。



< 7 > 評価の高かった科目比較

1) 一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均によって点数化し、H19中期とH19通年で上位10科目を比較した。
- H19中期、H19通年共に、全ての指標で最も評価が高かったのは「保健体育」であり、「興味」「積極性」「満足度」は常に最も高かった。そして、「保健体育」は全般的に評価が高く、学生が楽しんでいる様子がうかがえる。
- 「保健体育」に次いでいたのが「世界史」「国語」であり、「興味」「積極性」「満足度」のいずれも「保健体育」に次ぐ高さであった。
- 「日本史」も比較的高めであり、H19通年には「満足度」で「国語」「世界史」を上回って3番目の高さとなっており、年度の後半で満足度が大きく増した事例と言える。
- その他に目がついた点としては、「デザイン概論」は「積極性」では10位以内に入っているが、「興味」「満足度」では入っていない点、また、H19通年の満足度の10位に、他では見られなかった「哲学」が入っている点などを挙げることができる。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育	7.10	保健体育	6.95	保健体育	6.70
2	世界史	6.24	保健体育	5.53	世界史	5.67
3	保健体育	6.17	保健体育	4.91	国語	5.34
4	保健体育	5.76	世界史	4.66	保健体育	5.14
5	国語	4.33	国語	3.33	日本史	4.41
6	政治経済	3.20	政治経済	3.31	国語	3.97
7	国語	3.07	日本史	3.22	国語	3.74
8	日本史	2.99	デザイン概論	2.75	政治経済	3.24
9	保健体育	2.79	芸術	2.25	保健体育	3.09
10	国語	2.37	国語	2.21	保健体育	3.09

H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育	7.19	保健体育	6.18	保健体育	5.90
2	保健体育	6.67	保健体育	5.67	保健体育	5.32
3	保健体育	5.63	保健体育	5.05	日本史	5.00
4	世界史	5.23	世界史	3.56	国語	4.35
5	国語	4.03	国語	3.11	保健体育	4.32
6	日本史	3.43	日本史	2.67	世界史	4.25
7	保健体育	3.16	国語	2.64	国語	3.65
8	国語	2.99	政治経済	2.33	政治経済	3.56
9	政治経済	2.99	デザイン概論	2.18	保健体育	3.50
10	国語	2.83	保健体育	2.03	哲学	3.21

2) 語学

- H19通年の「語学」では「世界文化事情」が「興味」「積極性」「満足度」ともに最も高く、語学の中で最も評価が高いと言える。そして、それに次いで「日本文化」が高かった。（「満足度」は2科目が同スコア）
- H19中期では「日本文化」が3項目全てで最も高く、「世界文化事情」は「満足度」が6位にあるなどトップレベルではなかったが、H19通年には全てでトップになっていた。
- その他、H19通年には「総合英語」「英語スキルズ」「上級英語」などのスコアがやや高めであり、「英語スキルズ」はH19中期でもかなり高めのスコアであった。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	日本文化	8.48	日本文化	7.83	日本文化	8.48
2	英語スキルズ	7.29	世界文化事情	6.25	英語スキルズ	6.08
3	世界文化事情	7.08	インターンシップ	6.03	英語表現技法	5.68
4	総合英語	6.52	英語スキルズ	6.02	総合英語	5.14
5	総合英語	5.90	世界文化事情	5.00	総合英語	5.00
6	英語表現技法	5.13	総合英語	4.04	世界文化事情	4.58
7	ドイツ語	4.59	上級英語	4.00	インターンシップ	3.82
8	上級英語	4.25	英語表現技法	3.68	ドイツ語	3.78
9	インターンシップ	3.82	総合英語	3.56	英語スキルズ	3.17
10	上級英語	3.63	英語総合技能	3.40	英語スキルズ	3.07

H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	世界文化事情	7.92	世界文化事情	7.73	世界文化事情	7.50
2	日本文化	7.73	日本文化	5.91	日本文化	7.50
3	総合英語	5.51	世界文化事情	5.00	総合英語	5.97
4	英語スキルズ	5.10	上級英語	4.75	上級英語	5.00
5	世界文化事情	5.00	英語スキルズ	4.29	英語スキルズ	4.81
6	総合英語	4.86	インターンシップ	3.97	英語表現技法	4.57
7	英語表現技法	4.31	総合英語	3.97	総合英語	4.43
8	上級英語	3.75	英語総合技能	3.61	英語総合技能	3.89
9	英語総合技能	3.61	英語表現技法	3.47	ドイツ語	3.21
10	外国事情	3.18	総合英語	3.30	ビジネス英語b	3.00

3) 数理

- H19通年の「数理」では「基礎数学」と「微分積分」の評価が高めであり、この2科目に「線形代数」「応用数学」を加えた4科目が「興味」「積極性」「満足度」の全ての項目でトップ5に入っていた。
- 上記の4科目はH19中期でも決して低いスコアではなかったが、これらよりも「化学」「微分積分」の方がスコアが高めであり、中期と通年で少し差が見られた。
- 「化学」に関してはH19中期にはトップに近い位置にあったが、通年には5～7位となっており、評価は決して低くないもののスコアが下がる結果となっていた。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	基礎数学	4.24	化学	3.75	基礎数学	4.52
2	化学	4.15	基礎数学	3.17	化学	3.88
3	微分積分	3.63	微分積分	3.08	線形代数	2.69
4	微分積分	3.13	微分積分	3.01	微分積分	2.68
5	線形代数	2.68	数学特論	2.32	応用数学	1.91
6	基礎数学	2.16	線形代数	2.20	微分積分	1.83
7	応用数学	2.08	応用数学	1.96	基礎数学	1.27
8	線形代数	1.91	線形代数	1.31	線形代数	1.19
9	数学特論	1.43	基礎数学	1.21	応用数学	0.50
10	応用数学	-0.14	応用数学	0.00	応用数学	0.07

H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	微分積分	3.61	応用数学	3.48	基礎数学	4.30
2	基礎数学	3.52	基礎数学	3.13	微分積分	3.88
3	線形代数	3.30	微分積分	2.89	線形代数	3.65
4	応用数学	3.04	線形代数	2.71	応用数学	3.56
5	微分積分	2.80	化学	2.67	線形代数	2.50
6	化学	2.67	微分積分	2.47	微分積分	2.38
7	基礎数学	2.33	数学特論	2.32	化学	2.15
8	線形代数	2.03	基礎数学	1.99	基礎数学	1.95
9	応用数学	1.35	線形代数	1.86	応用数学	1.82
10	物理学	0.81	応用数学	0.62	物理学	0.42

4) 電気

- ここまで見てきた部会の科目は、「興味」「積極性」「満足度」のトップが同じというケースが多く見られたが、「電気」では上位の顔ぶれは似通っているが、各々のトップは違うというケースが多いように見受けられた。
- H19通年では「アルゴリズム」「設計製図」「創造実験」が上位を占めたが、トップは各項目で異なっており、一定ではなかった。そして、この3科目に「情報工学」「コンピュータ演習」を加えたものがH19中期の上位を占めており、大卒では評価の高い科目は共通と言える。
- ただし、「設計製図」はH19通年に上位となっているが、H19中期にはトップ10に入っているもののそれほど高い評価ではなく、後半になって興味が湧いて満足度が増した科目と言える。
- 「インターンシップ」に関してもH19中期でトップ10に入っていたが、それほど高い位置ではなかった。しかし、H19通年には「積極性」でトップとなっている点が目についた。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	アルゴリズム	8.33	コンピュータ演習	6.03	情報工学	6.35
2	情報工学	7.12	アルゴリズム	5.83	創造実験	6.00
3	創造実験	6.92	マルチメディア	5.56	アルゴリズム	5.00
4	コンピュータ演習	6.71	情報工学	5.40	コンピュータ演習	4.70
5	マルチメディア	5.56	創造実験	5.00	コンピュータグラフィクス	4.42
6	設計製図	4.63	インターンシップ	4.08	情報システム	4.19
7	インターンシップ	4.49	設計製図	3.66	オペレーティングシステム	3.93
8	情報システム	4.47	情報システム	3.29	設計製図	3.66
9	オペレーティングシステム	3.21	コンピュータグラフィクス	2.86	情報伝送工学	3.30
10	電気基礎	3.14	卒業研究	2.72	インターンシップ	3.08

H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験	7.14	インターンシップ	5.57	アルゴリズム	7.00
2	アルゴリズム	6.67	アルゴリズム	5.00	設計製図	5.66
3	情報工学	6.29	設計製図	5.00	創造実験	5.57
4	設計製図	6.18	創造実験	5.00	情報工学	5.43
5	マルチメディア	5.75	コンピュータ演習	4.56	コンピュータ演習	5.30
6	インターンシップ	5.00	情報システム	3.75	工学演習	3.82
7	コンピュータ演習	5.00	マルチメディア	3.50	送配電工学	3.79
8	コンピュータグラフィクス	4.32	情報工学	3.38	電子回路	3.72
9	情報システム	4.03	電子回路	3.22	インターンシップ	3.57
10	電気基礎	3.29	卒業研究	3.19	電気機器	3.55

5) 機械

- 「機械」で目立ったのは「創造実験」のスコアの高さであった。「創造実験」の ~ は、H19中期、通年ともにほとんどトップ10に入っており、常に興味を持って非常に積極的に取り組んでおり、満足度も高いことが分かる。先に「部会別創造実験の比較」でも「機械」の満足度の高さが確認できたが、「興味」「積極性」も非常に高く、「機械」では特別な科目と言うことができる。
- H19中期には「情報処理」が高く、「興味」「積極性」でトップであった。H19通年でも高めであり、「興味」と「満足度」は3位であった。
- 「インターンシップ」も高く、H19中期には「満足度」がトップ、H19通年には「積極性」がトップで「満足度」が4位という結果であった。
- 「機械」は全般的に満足度が高く、学科としてまとまりがあるという分析がなされるが、ここで見たように「創造実験」が好まれている点との関連もあると思われる。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	情報処理	6.67	情報処理	5.42	インターンシップ	4.89
2	創造実験	5.56	インターンシップ	5.00	情報処理	4.86
3	創造実験	5.43	卒業研究	4.90	創造実験	4.35
4	卒業研究	4.80	創造実験	4.57	機械設計演習	3.62
5	機械システム基礎	4.70	創造実験	4.44	創造実験	3.18
6	機械製図	4.44	機械製図	3.61	コンピュータ演習	3.14
7	インターンシップ	4.11	創造実験	3.41	エレクトロニクス	3.00
8	創造実験	3.95	マイコン制御	3.38	創造実験	2.97
9	創造実験	3.68	機械設計演習	3.26	卒業研究	2.76
10	機械設計演習	3.65	創造実験	3.16	創造実験	2.61

H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験	5.00	インターンシップ	5.00	創造実験	4.52
2	創造実験	4.74	創造実験	4.84	創造実験	4.47
3	情報処理	4.71	創造実験	4.79	情報処理	4.26
4	創造実験	4.38	機械製図	4.38	インターンシップ	4.13
5	インターンシップ	4.35	創造実験	4.21	エネルギー工学	3.65
6	卒業研究	4.31	情報処理	3.91	卒業研究	3.53
7	機械システム基礎	4.31	卒業研究	3.53	創造実験	3.21
8	コンピュータ演習	3.81	創造実験	3.21	生産システム工学	2.96
9	創造実験	3.81	機械システム基礎	2.64	ピークル工学	2.81
10	マイコン制御	3.65	材料力学	2.64	機械システム基礎	2.78
					機械工学実験	2.78

6) 国情

- 「国情」では「情報処理」「コンピュータ演習」「創造実験」の3分野でほとんどを占めていた。
- H19通年は「興味」「満足度」のトップが「コンピュータ演習」であり、「情報処理 b」「情報処理 b」の評価が高く上位を占めており、「コンピュータ演習」「データベース」「マルチメディア」が続いており、「創造実験」は下位にあった。
- H19中期には「情報処理 b」が3項目ともにトップであったが、2位以降は全く異なった傾向であり、「コンピュータ演習」「コンピュータ演習」「創造実験」などが続いていた。
- 科目のネーミングが似通っている面はあると思われるが、「国情」では「情報処理」「コンピュータ演習」「創造実験」の3つの分野に人気が集まっている状況が見られた。

H19中期で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	情報処理 b	5.81	情報処理 b	4.83	情報処理 b	5.48
2	創造実験	4.85	コンピュータ演習	4.72	コンピュータ演習	5.00
3	情報処理 b	4.83	創造実験	4.70	コンピュータ演習	4.44
4	情報処理 b	4.72	マルチメディア	3.89	創造実験	4.41
5	コンピュータ演習	4.24	コンピュータ演習	3.79	数値計算	3.71
6	マルチメディア	4.11	データベース	3.46	マルチメディア	3.33
7	創造実験	3.61	情報処理 b	3.33	情報処理 a	3.18
8	数値計算	3.57	創造実験	3.33	データベース	2.69
9	コンピュータ演習	3.33	情報処理 b	2.83	情報処理 b	2.50
10	情報処理 a	2.22	数値計算	2.06	情報処理 b	2.17

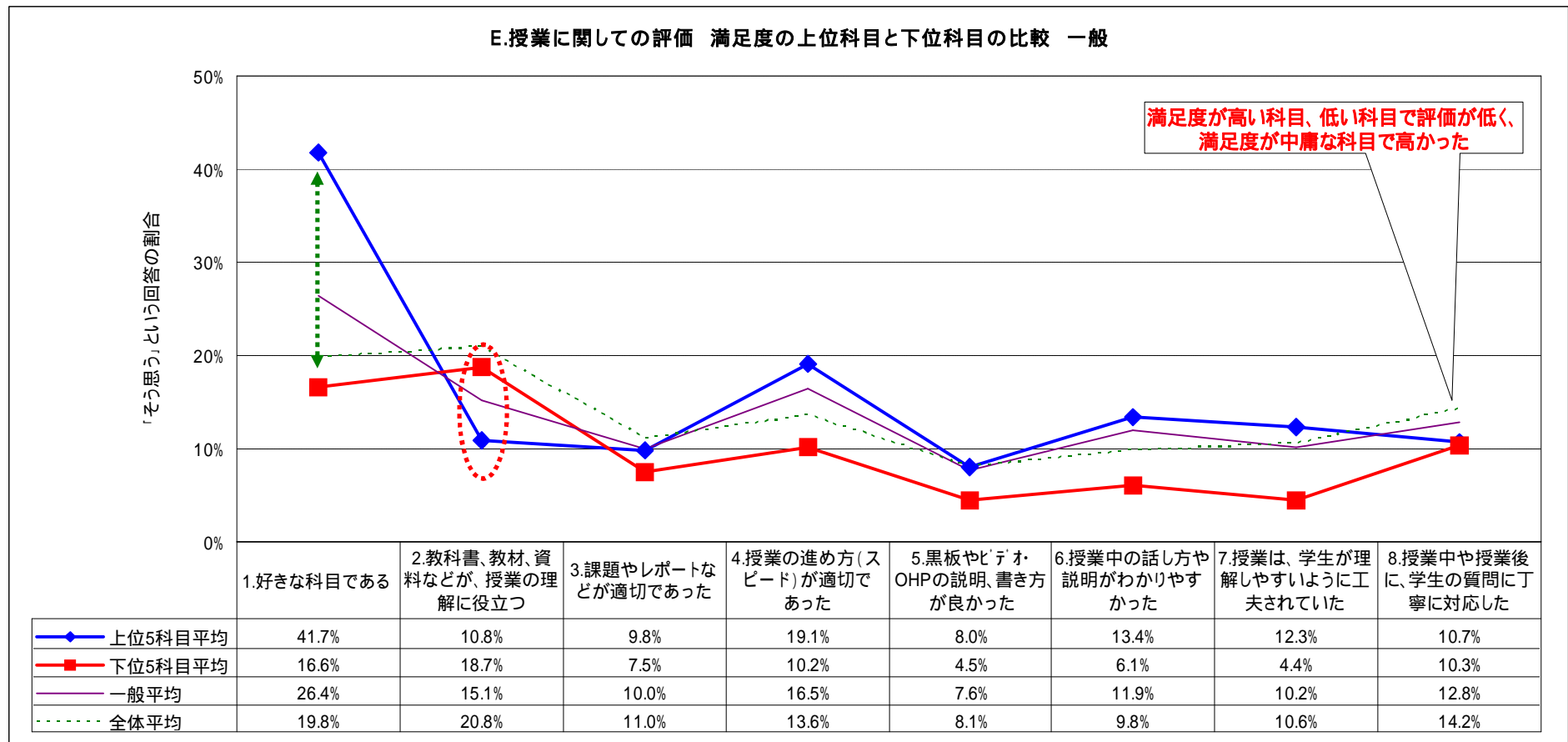
H19通年で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータ演習	6.25	情報処理 b	5.88	コンピュータ演習	6.88
2	情報処理 b	6.11	創造実験	5.56	情報処理 b	6.29
3	情報処理 b	5.88	コンピュータ演習	4.85	情報処理 b	6.11
4	マルチメディア	5.19	コンピュータ演習	4.69	コンピュータ演習	5.59
5	コンピュータ演習	4.71	情報処理 b	4.35	データベース	5.00
6	データベース	4.63	卒業研究	4.29	創造実験	5.00
7	創造実験	4.41	創造実験	4.24	マルチメディア	4.80
8	情報理論	3.57	マルチメディア	4.00	情報処理 a	3.18
9	計算機システム	3.33	データベース	3.46	情報処理 a	3.06
10	創造実験	3.33	創造実験	2.50	情報理論	2.86

< 8 > 満足度が高い科目と低い科目の授業評価比較

1) 一般

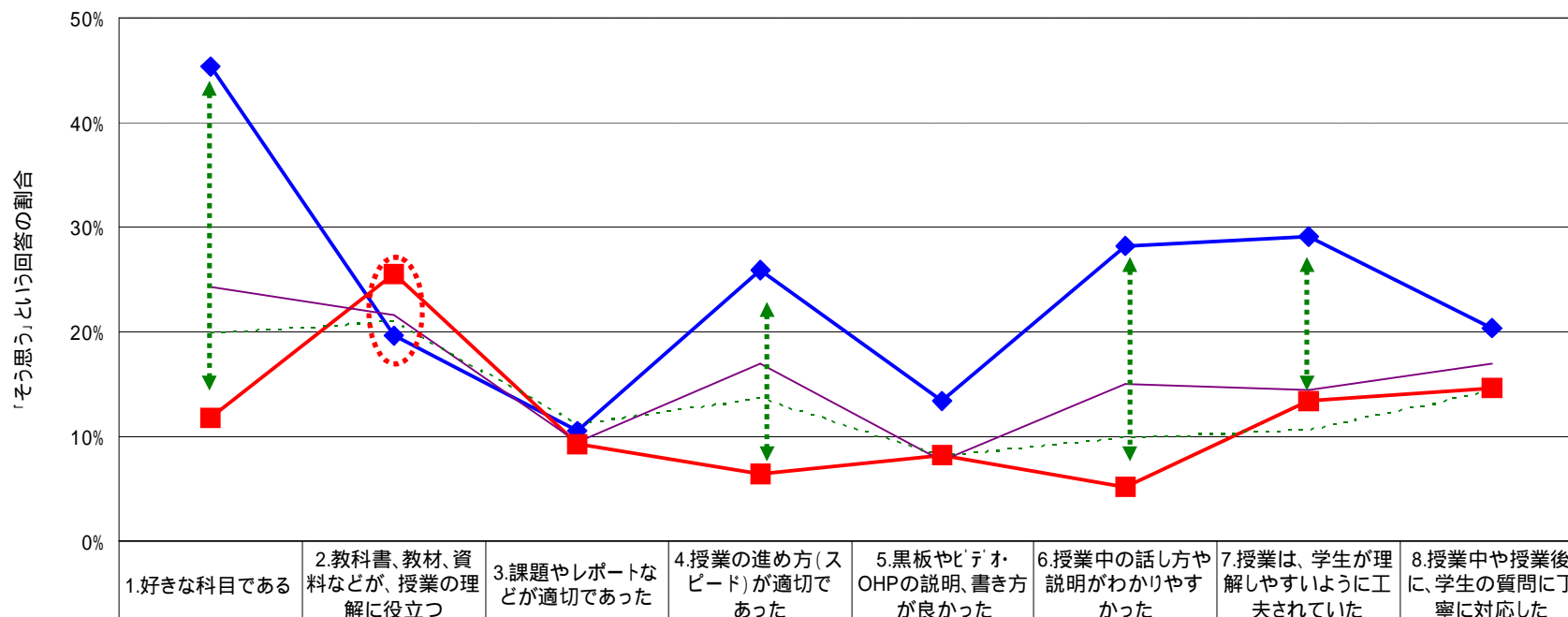
- 「満足度」が高い科目と低い科目では内容の評価にどのような差があるのかを確認するために、授業評価を上位5科目と下位5科目の平均を部会別に比較した。
- 「一般」で最も差が大きかったのは「好きな科目」であり、満足度が高い科目ではその授業を「好き」と感じている学生が非常に多いことが確認できた。また、「授業の進め方」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」といった項目も差が大きく、これらがしっかりしていることも満足度につながっていると言える。
- 一方、「教科書・教材・資料」だけは満足度が低い科目の評価が高く、この点は満足度に大きな影響を与えていないと言える。「課題やレポートなど」「黒板やビデオ」「質問に丁寧に対応」といった点も、「一般」の授業においては満足度にそれほど大きな影響を与えていない。
- 「一般」の科目では、「その科目が好きかどうか」ということが満足度に非常に強く影響を与えていると言える。



2) 語学

- 「語学」においても「好きな科目」の差が最も大きく、「その科目が好きかどうか」が満足度に大きな影響を与えていることが分かる。
- そして、「授業の進め方」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」も差が大きかった。中でも「話し方や説明」の差が大きく、これは「語学」の科目に特有のものではないかと思われる。
- 「教科書・教材・資料」は「語学」においても満足度が低い層の方が高く評価しており、この項目は満足度には関係していないようであり、「課題やレポートなど」「質問に丁寧に対応」も大きな影響はなさそうであった。
- 「語学」の科目の満足度においては「授業が好き」という点の影響が大きい、「授業の進め方は話し方、理解しやすいように工夫されているかどうか」も大きな影響を与えていると言える。

E. 授業に関する評価 満足度の上位科目と下位科目の比較 語学

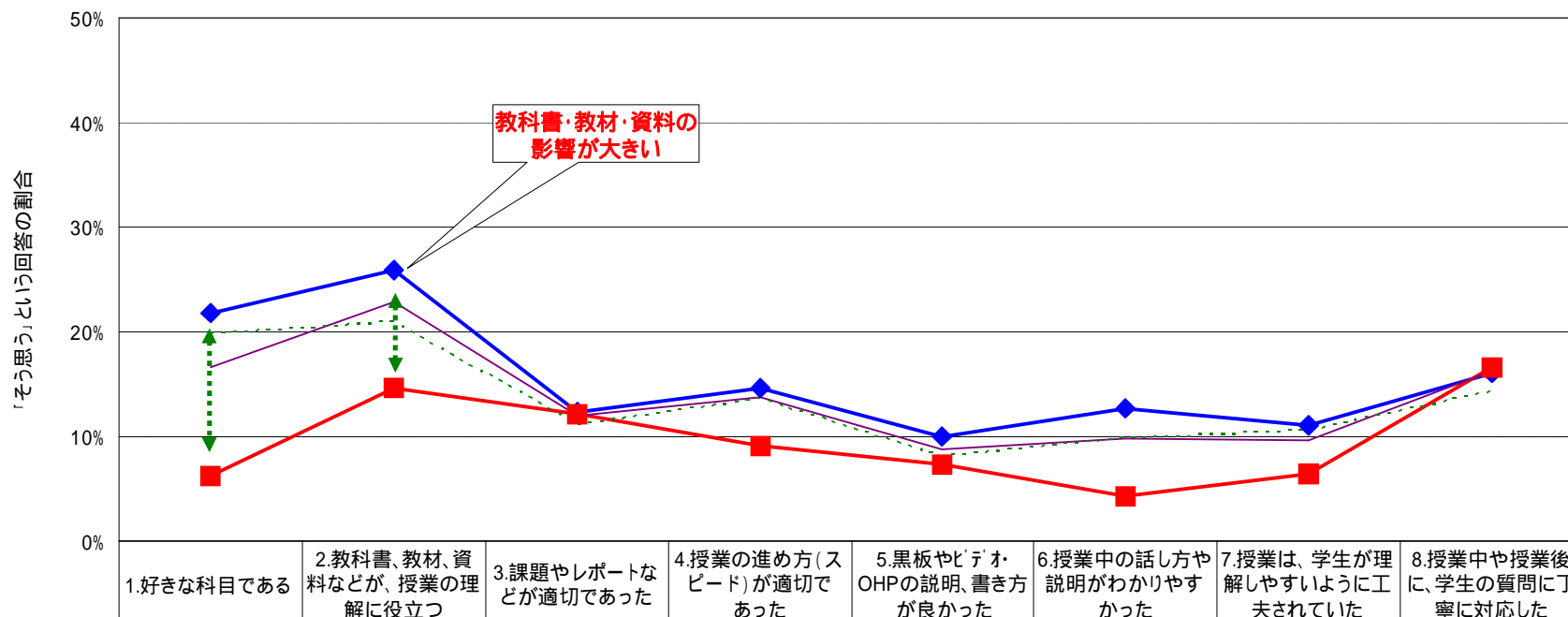


◆ 上位5科目平均	45.3%	19.7%	10.5%	25.9%	13.4%	28.1%	29.1%	20.4%
■ 下位5科目平均	11.7%	25.6%	9.3%	6.5%	8.2%	5.1%	13.4%	14.7%
— 語学平均	24.3%	21.6%	9.5%	17.0%	7.6%	14.9%	14.5%	17.0%
- - - 全体平均	19.8%	20.8%	11.0%	13.6%	8.1%	9.8%	10.6%	14.2%

3) 数理

- 「数理」では、差はそれほど大きくないが、「好きな科目」で満足している層とそうでない層との評価に差が見られた。
- 「一般」「語学」では「教科書・教材・資料」は満足度に影響がなさそうであったが、「数理」では影響があるようであり、「教科書・教材・資料」が授業の理解に役立つことで満足度を増すことができると言える。
- その他の項目にはそれほど差がなく、「課題やレポートなど」「質問に丁寧に対応」の2点は満足している層とそうでない層の間に全く差が見られなかった。
- ここまでの結果を見ると、「数理」においては「科目自体が好きであることと、教科書・教材・資料などが分かりやすいことが満足度を左右する」という関係が考えられる。

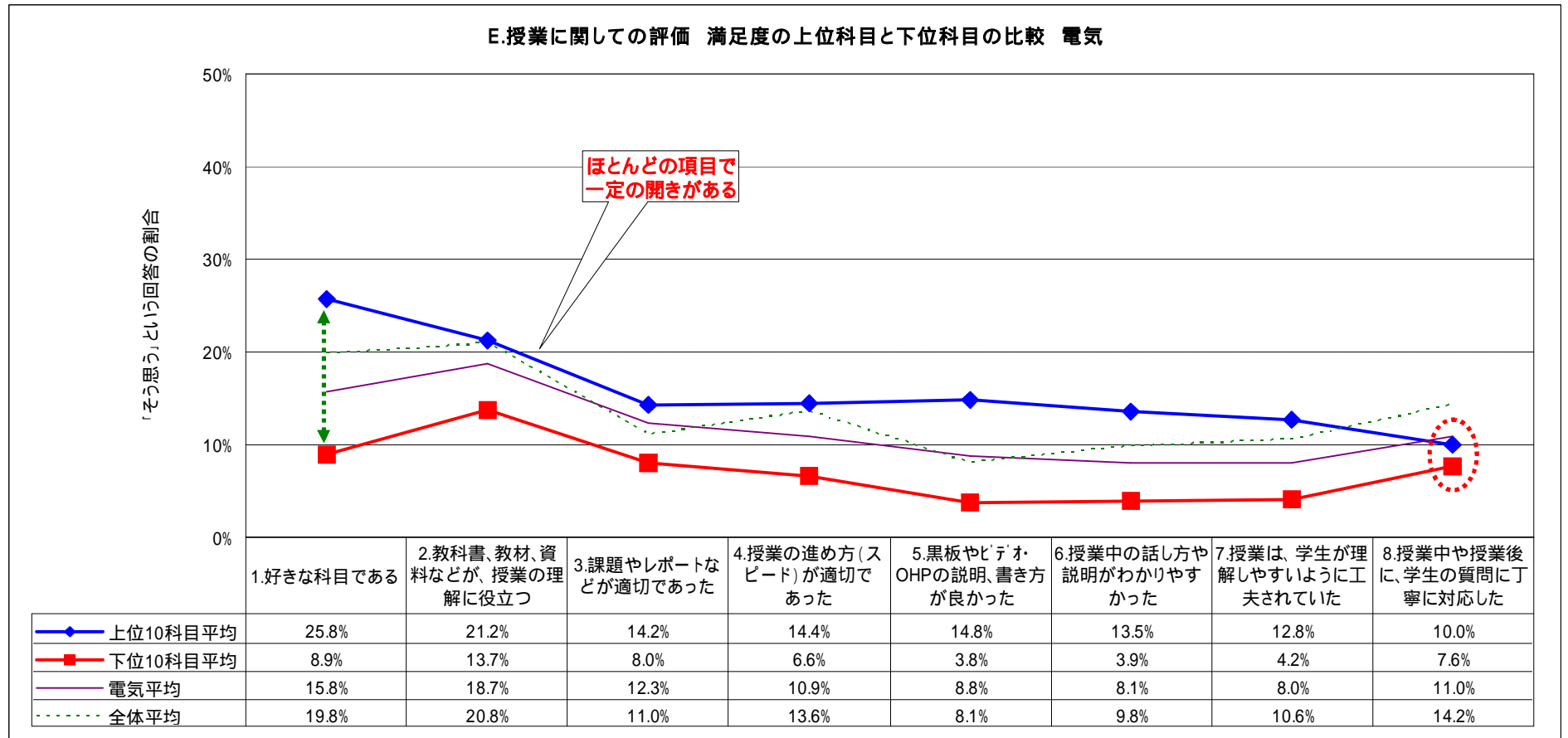
E. 授業に関する評価 満足度の上位科目と下位科目の比較 数理



◆ 上位5科目平均	21.8%	25.9%	12.4%	14.7%	10.0%	12.7%	11.0%	16.0%
■ 下位5科目平均	6.2%	14.6%	12.1%	9.1%	7.3%	4.3%	6.5%	16.6%
— 数理平均	16.6%	22.8%	12.0%	13.8%	8.7%	9.9%	9.7%	16.2%
- - - 全体平均	19.8%	20.8%	11.0%	13.6%	8.1%	9.8%	10.6%	14.2%

4) 電気

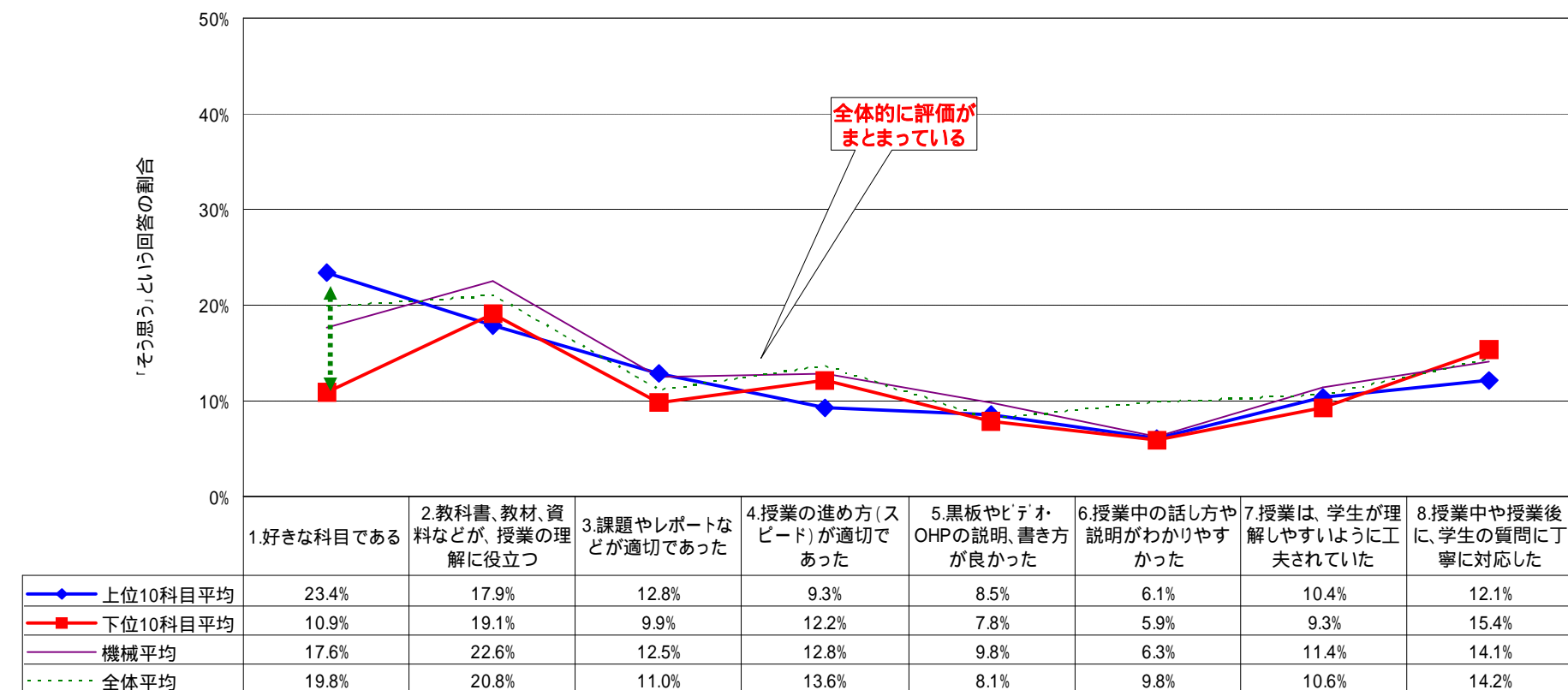
- 「電気」も「好きな科目」の差がやや大きかったが、全体的に満足度が高い層と低い層の差はほぼ一定であった。
- 「質問に丁寧に対応」の差は少なかったものの、逆転している項目は見られなかった。
- 「電気」では科目が「好き」という学生の満足度がやや高めであるが、満足している層はその科目を全般的に高く評価しており、満足度が低い層は、ある一定の部分ではなく全般的に低い評価をしているようである。



5) 機械

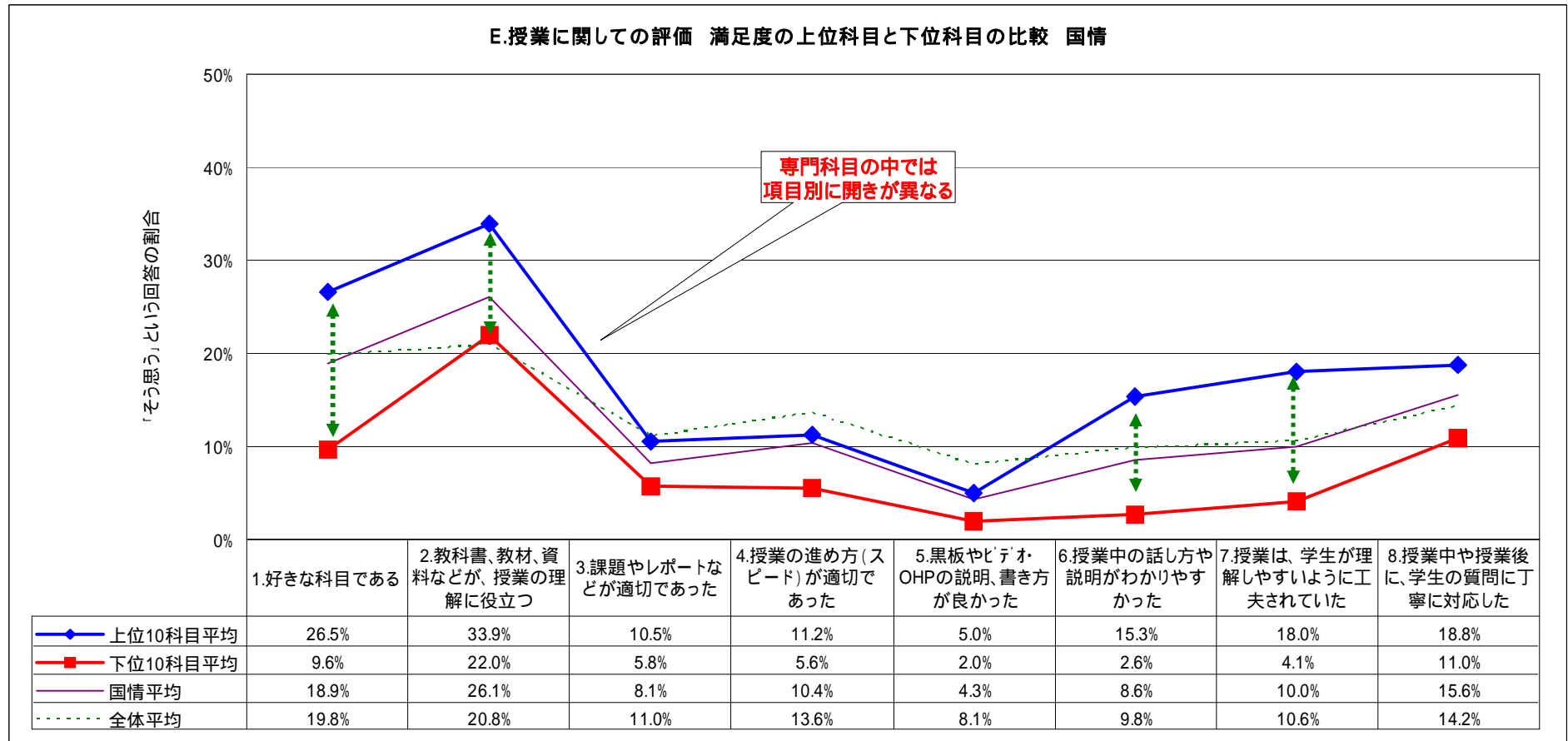
- 「機械」もそれほど差は大きくないが「好きな科目」には差が見られ、満足している層は科目自体が好きだと感じていると言える。
- 「好きな科目」以外の項目は満足度が高い層と低い層の評価がほとんど一致しており、これは他の部会には見られない特徴であった。
- 「機械」は他の部会と比較して満足度が高く、クラスがまとまっている傾向が見られたが、このデータを見ると「機械」の科目は授業自体に満足しているか否かに係わらず評価がまとまっており、学生全体が一定のレベルの評価をしていると言える。
- 「好きな科目」「課題やレポート」の2項目以外では上位10科目の平均が機械平均を下回っている。ここでの上位・下位は「満足度」で並べたものの上位と下位であり、各々の評価項目の上位・下位とは食い違いが起こっているためこのように上位の平均が全体を下回る結果となっている。これを解釈すると、「機械」においては満足度が高い科目において必ずしも「教科書・教材・資料」「授業の進め方」などの評価が高いわけではないということになる。

E.授業に関する評価 満足度の上位科目と下位科目の比較 機械



6) 国情

- 「国情」は、他の専門系部会である「電気」「機械」と比べると、満足している層とそうでない層の開きがまちまちであり、評価に差が見られた。
- 差が最も大きかったのは「好きな科目」であり、この点は他の部会と同様であった。
- 「教科書・教材・資料」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」の3点は差があり、「国情」の科目ではこれらによって満足度が変わるようであった。
- 「課題やレポートなど」「授業の進め方」「黒板やビデオ」「質問に丁寧に対応」の4点は差が少なく、これらは満足度とはあまり関係がないと言えそうであった。

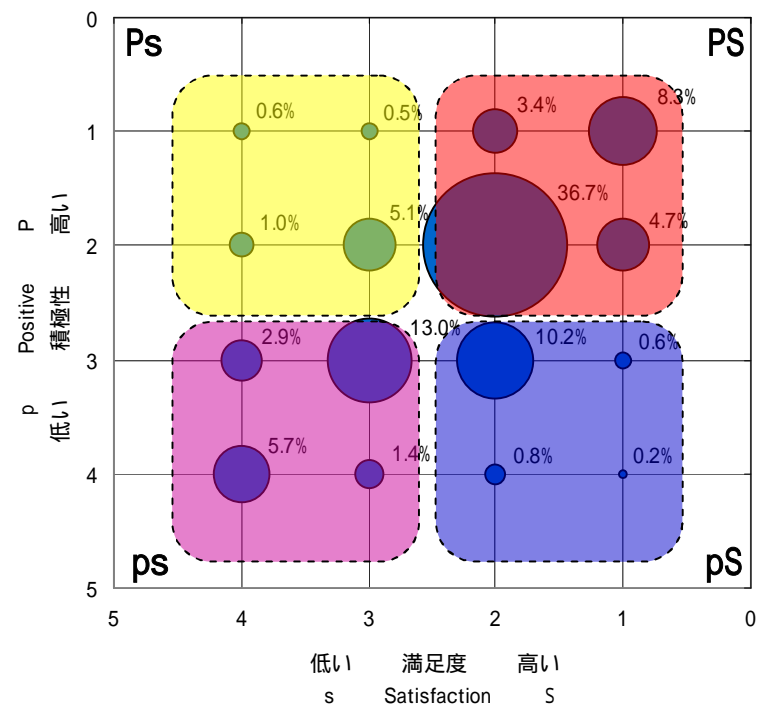


< 9 > 達成度に関して

1) 全体傾向

- 従来と同様に「積極性」と「満足度」の組合せによってPS指標を作ったところ、最も多かったのは積極性も満足度も高い「PS・充実グループ」の53.1%であった。
- 次に多かったのは積極性も満足度も低い「ps・あきらめグループ」であり、残念ながら23.0%と、全体の1/4がこのグループであった。
- そして、積極性は低いが高満足度が高い「pS・引っぱられているグループ」が11.8%、積極性は高いが満足度が低い「Ps・混迷グループ」が7.1%という割合であった。
- 調査条件が全く同じのH19中期と比べると、「PS・充実グループ」が微増、「ps・あきらめグループ」が微減であり、状況としては良くなっていると言える。
- H15からH17までは記名式であったが、「PS・充実グループ」が増加を続けており、H18の中期～通年は無記名としたが「PS・充実グループ」は減少せず、良い状態が続いている。
- ただし、全体の1/4が積極性がなく満足もしていない学生であるというのは事実であり、今後この層の実態をしっかりと把握することが非常に重要なテーマとなってくる。

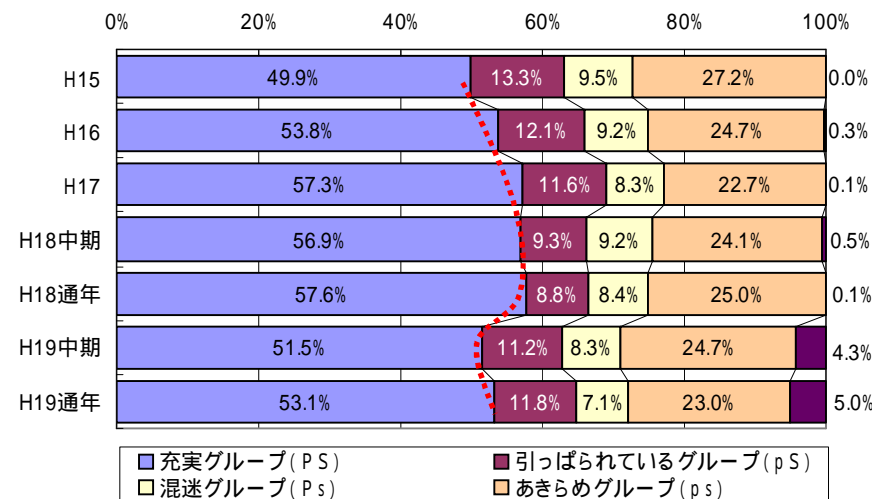
満足度と積極性の関係



PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	53.1%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	11.8%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	7.1%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	●授業に期待がなくて積極性が低く満足度も低い。 ●まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	23.0%

満足度と積極性 経年変化



< 10 > 調査のまとめ

1) 学生の授業評価の現状分析

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 全体の66.1%は授業に興味を持っており、1年で見ると中期より通年に興味が強まる傾向が見られた。そして、61.3%は授業に積極的に取り組んでおり、積極的な学生は前回よりもわずかに増加していた。 □ 全体の65.8%が授業に満足しており、調査条件が変わってもほぼ6割は満足という状況であった。 □ 授業に積極的で満足度も高い「充実グループ(PS)」は全体の53.1%であり、前回調査よりも1.6ポイント増加していた。一方、全体の1/4は積極的ではなく不満がある「あきらめグループ」であり、今後はこの層への対応が重要と言える。 □ 28.6%は日常的に自宅学習しているが、27.4%は全くしておらず、1年間の後半に学習する学生が増加する傾向が見られた。 	<p>全体の約6割は授業に満足し、充実感を感じているが、約3割は不満を持ち、あきらめも感じられる。</p> <p>全体的に学年の後半には少しやる気が出てくる傾向が見られ、短期的な結果としては前回調査よりも良い結果となっていた。</p> <p>約3割は自宅学習をしているが、同様に3割は全くしておらず、これは不満を持つ3割と一致する。</p>
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」の3指標ともに「一般」が最も高く、「語学」「機械」が続いていた。「国情」は3し指標ともに最も低く、「国情」の科目に満足している学生は6割を切っていた。 □ PS指標で見ると「一般」「語学」「機械」で充実グループが多いが、時系列変化では「一般」「語学」は、継続的に減少しており、実態把握と対策が必要と言える。 □ 「宿題・予習・復習時間」が最も長いのは「数理」であり、試験前の勉強も「数理」に時間をかけているようであった。 □ 「一般」「語学」科目への「興味」「積極性」「満足度」は高いものの、H16から継続的に低下傾向にあり、注意が必要と言える。そして、「数理」「電気」は低いまま横這いで、結果的に6部会の差は縮まっているが、この要因は高い部会の低下によるものと見られ、良い傾向とは言えない。 □ 満足度の高い「一般」は「好きな科目」「進め方が適切」、「語学」はコミュニケーション面の評価が高いという特徴があった。 	<p>「一般」「語学」「機械」の科目に充実感を感じる学生が多いが、「一般」「語学」ではその割合は年々減少しており、注意が必要と言える。</p> <p>「国情」「数理」「電気」の科目はやや不満が多いが、不満を持つ割合は以前とあまり変わっていない。</p> <p>結果的に6部会の科目の評価の差は縮まっているが、この要因は評価が高い部会の低下によるものであり、良い傾向とは言えない。</p> <p>最も自宅学習の時間を割いているのは「数理」の科目に関してであった。</p>
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」ともに1年生が最も高く、3年生が続いており、「積極性」では1年生と3年生は同程度であった。そして、4年生が3指標ともに最も低く、5年生はそれをやや上回っていた。 □ 5年生は卒業直前に意識変化があるようで、授業の評価が一気に上がる傾向があった。 □ PS指標で見ると3年生が最も充実しており、1年生もそれに近い状態であった。4年生は1/3があきらめグループであり、良くない状態と言える。 □ 自宅で最も勉強しているのは1年生で、次いで5年生であった。3年生は積極的であったが、自宅で勉強する学生は少なかった。 	<p>入学直後の1年生の積極性、満足度が高いが、3年生も同程度の充実感があった。</p> <p>4年生の満足度が最も低く、5年生も中期までは満足度が低いものの、卒業直前の通年には意識変化があり好評価となっていた。</p> <p>自宅学習をしているのは1年生と5年生で、満足度が高い3年生はあまり自宅学習をしていなかった。</p>
学生群別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ PS指標で見ると「現3年生」が1年生の時点から非常に高い充実感を継続している。特に「国際コミ」の学生が充実している点が他学年と異なっていた。 □ 同一学生群でも基本的には学年が上がると充実感がなくなる傾向があるが、卒業をひかえた5年生の末に心境の変化が見られる。 □ 現3年生は「質問に丁寧に対応」「学生が理解しやすいように工夫」など、教員の授業の進め方自体を評価しているようであった。 	<p>同一学生群では「現3年生」が1年生の時点から非常に良い状態を保っており、科目に対する評価ではなく、教員を高く評価している傾向が見られる。</p> <p>他の学生群を見ると、基本的には学年が上がると充実感が下がる傾向があったが、卒業直前には全体的に好評価に転じる傾向が見られた。</p>

今回の調査から学生の実態をまとめると下記ようになる。

< 全体傾向 >

- 全体の約6割は授業に満足し、充実感を感じているが、約3割は不満を持ち、あきらめも感じられる。
- 全体的に学年の後半には少しやる気が出てくる傾向が見られ、短期的な結果としては前回調査よりも良い結果となっていた。
- 約3割は自宅学習をしているが、同様に3割は全くしておらず、これは不満を持つ3割と一致する。

< 部会別傾向 >

- 「一般」「語学」「機械」の科目に充実感を感じる学生が多いが、「一般」「語学」ではその割合は年々減少しており、注意が必要と言える。
- 「国情」「数理」「電気」の科目はやや不満が多いが、不満を持つ割合は以前とあまり変わっていない。
- 結果的に6部会の科目の評価の差は縮まっているが、この要因は評価が高い部会の低下によるものであり、良い傾向とは言えない。
- 最も自宅学習の時間を割いているのは「数理」の科目に関してであった。

< 学年別傾向 >

- 入学直後の1年生の積極性、満足度が高いが、3年生も同程度の充実感があった。
- 4年生の満足度が最も低く、5年生も中期までは満足度が低いものの、卒業直前の通年には意識変化があり好評価となっていた。
- 自宅学習をしているのは1年生と5年生で、満足度が高い3年生はあまり自宅学習をしていなかった。

< 学生群別傾向 >

- 同一学生群では「現3年生」が1年生の時点から非常に良い状態を保っており、科目に対する評価ではなく、教員を高く評価している傾向が見られる。
- 他の学生群を見ると、基本的には学年が上がると充実感が下がる傾向があったが、卒業直前には全体的に好評価に転じる傾向が見られた。

< 今後のポイント >

全体の3割を占める「あきらめグループ」をしっかりと捉え、対策を検討する。
これは個別の対処療法にならざるを得ないと思われる。

学年が上がるほど充実感が低下するため、低学年の時点で早期に変化を捉え、対応する必要がある。
そのために好循環の事例である「現3年生」の雰囲気形成の過程などをしっかりと捉え、他の学年への応用の可能性を探る。

「一般」「語学」の科目の継続的な充実度低下の要因を探り、早急に対処する必要がある。

学年の通年、卒業直前に積極性が増す傾向があり、この変化の際の心境の変化からヒントを探る。

2) 満足度が高い科目の特徴分析

	分野ごとの意見	まとめ
取り組み姿勢による比較	<ul style="list-style-type: none"> □ 授業が好きかどうかということが、「興味」「積極性」「満足度」と強い関係にあることが分かった。 □ 授業に興味を持っている学生は、授業を好きだと感じており、「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」の評価も高い。 □ 積極的な学生は授業を好きだと感じ、積極的でない学生は授業の中での「話し方や説明」についていけず、授業が工夫されていないと感じている。 □ 満足度による授業評価の差は大きく、満足度の低い学生は「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」に大きな不満を感じていた。 	<p>授業が「好きかどうか」ということが「興味」「積極性」「満足度」と強い関連性を持っている。</p> <p>「授業中の話し方や説明が分かりやすい」「学生が理解しやすいように工夫されている」ということも「興味」や「満足度」に大きく関係しており、力を入れるべきポイントと言える。</p>
満足度が高い科目の特徴	<ul style="list-style-type: none"> □ 「一般」では、好きな科目であるかどうか満足度に大きく影響しており、教科書を始めとしたツール類などの影響は小さかった。 □ 「語学」では好きな科目であるとともに、「進め方」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」の3点が満足度に非常に強い影響を持っている。 □ 「数理」では満足層と不満層の意識差が小さいが、「教科書・教材・資料」が満足度に影響を与えているという特徴が見られた。 □ 「電気」では項目による特徴がなく、満足している層は全般的に高めの評価をしており、不満層は全般的に低かった。 □ 「機械」は満足している層と不満層の授業評価に差がなく、全学生が一定の評価をしていた。 □ 「国情」の科目は専門系の部会としては差が大きく、「教科書・教材・資料」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」が満足度に影響していた。 	<p>どの科目でも授業が「好きかどうか」が満足度などを左右する傾向が見られるが、満足度に対して影響するのは科目によって異なるケースも見られた。</p> <p>「一般」では教科書をはじめとしたサポートツール類の影響は小さいが、「数理」「国情」の科目では「教科書・教材・資料」などのツール類の影響が大きかった。</p> <p>「語学」は「授業の進め方」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」など、教える側とのコミュニケーション面の影響が大きいと思われる。</p> <p>「機械」は満足している層もしていない層も授業の評価に差はなく、学生に意識の差が少ない。それが良い雰囲気につながっているのではないかと思われる。</p>
評価の高い科目	<ul style="list-style-type: none"> □ 「一般」では「保健体育」の「興味」「積極性」「満足度」が高く、「世界史」「国語」「日本史」が続いていた。 □ 「語学」では、中期には3指標ともに「日本文化」がトップであったが、通年では3指標とも「世界文化事情」がトップとなっていた。 □ 「数理」では中期と通年で評価が高い科目が入れ替わっており、また、特定の科目が全指標で上位を占めることはなかった。 □ 「電気」も上位は一定ではなかったが、「アルゴリズム」「設計製図」「創造実験」「情報工学」「コンピュータ演習」の評価が高い。 □ 「機械」は「創造実験」の評価が全般的に高く、非常に積極的に取り組んでいる。また、「情報処理」「インターシップ」の評価も高い。 □ 「国情」では「情報処理」「コンピュータ演習」「創造実験」が上位を占めており、中期は「情報処理」の評価が非常に高かった。 	<p>「一般」では「保健体育」の評価が高く、学生が楽しんで授業を受けているようであった。</p> <p>「語学」は前回調査で「日本文化」の評価が高く、今回は「世界文化事情」が全てトップであった。</p> <p>「機械」では「創造実験」の評価が全般的に高く、非常に積極的に取り組んでいるようであった。</p> <p>「国情」では「情報処理」「コンピュータ演習」「創造実験」の評価が高かった。</p> <p>「数理」と「電気」は上位に同じような科目が並んでいたが、特定のものに好評価が集中することはなかった。</p>

今回の調査から満足度を高める方策をまとめると下記のようになる。

< 取り組み姿勢による比較 >

- 授業が「好きかどうか」ということが「興味」「積極性」「満足度」と強い関連性を持っている。
- 「授業中の話し方や説明が分かりやすい」「学生が理解しやすいように工夫されている」ということも「興味」や「満足度」に大きく関係しており、力を入れるべきポイントと言える。

< 満足度が高い科目の特徴 >

- どの科目でも授業が「好きかどうか」が満足度などを左右する傾向は見られるが、満足度に対して影響するのは科目によって異なるケースも見られた。
- 「一般」では教科書をはじめとしたサポートツール類の影響は小さいが、「数理」「国情」の科目では「教科書・教材・資料」などのツール類の影響が大きかった。
- 「語学」は「授業の進め方」「話し方や説明」「理解しやすいように工夫」など、教える側とのコミュニケーション面の影響が大きいと思われる。
- 「機械」は満足している層もしていない層も授業の評価に差はなく、学生に意識の差が少ない。それが良い雰囲気につながっているのではないと思われる。

< 評価の高い科目 >

- 「一般」では「保健体育」の評価が高く、学生が楽しんで授業を受けているようであった。
- 「語学」は前回調査で「日本文化」の評価が高く、今回は「世界文化事情」が全てトップであった。
- 「機械」では「創造実験」の評価が全般的に高く、非常に積極的に取り組んでいるようであった。
- 「国情」では「情報処理」「コンピュータ演習」「創造実験」の評価が高かった。
- 「数理」と「電気」は上位に同じような科目が並んでいたが、特定のものに好評価が集中することはなかった。

< 今後のポイント >

根本的な要因であるが、授業が「好きかどうか」が「興味」「積極性」「満足度」に大きな影響を与えている。「興味」「好き」という経路も考えられるが、「好きになれる授業」という考え方が重要だと言える。

「授業中の話し方や説明が分かりやすい」「学生が理解しやすいように工夫されている」ということも「興味」や「満足度」に大きく関係しており、力を入れるべきポイントと言える。

部会によって特定の科目の評価が高かったり、学期によって異なったりと特徴が見られた。また、満足度を左右するポイントも部会によって異なっており、一概には改善の方向性は示せないが、評価が高い科目の研究を行うことで何らかのヒントが得られるものと思われる。

平成19年度

KTC授業アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成20年5月13日
発行者	金沢工業高等専門学校
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています